

## 第6章 男女共同参画社会について

### 1 男女平等に関する法律や用語などの認知状況

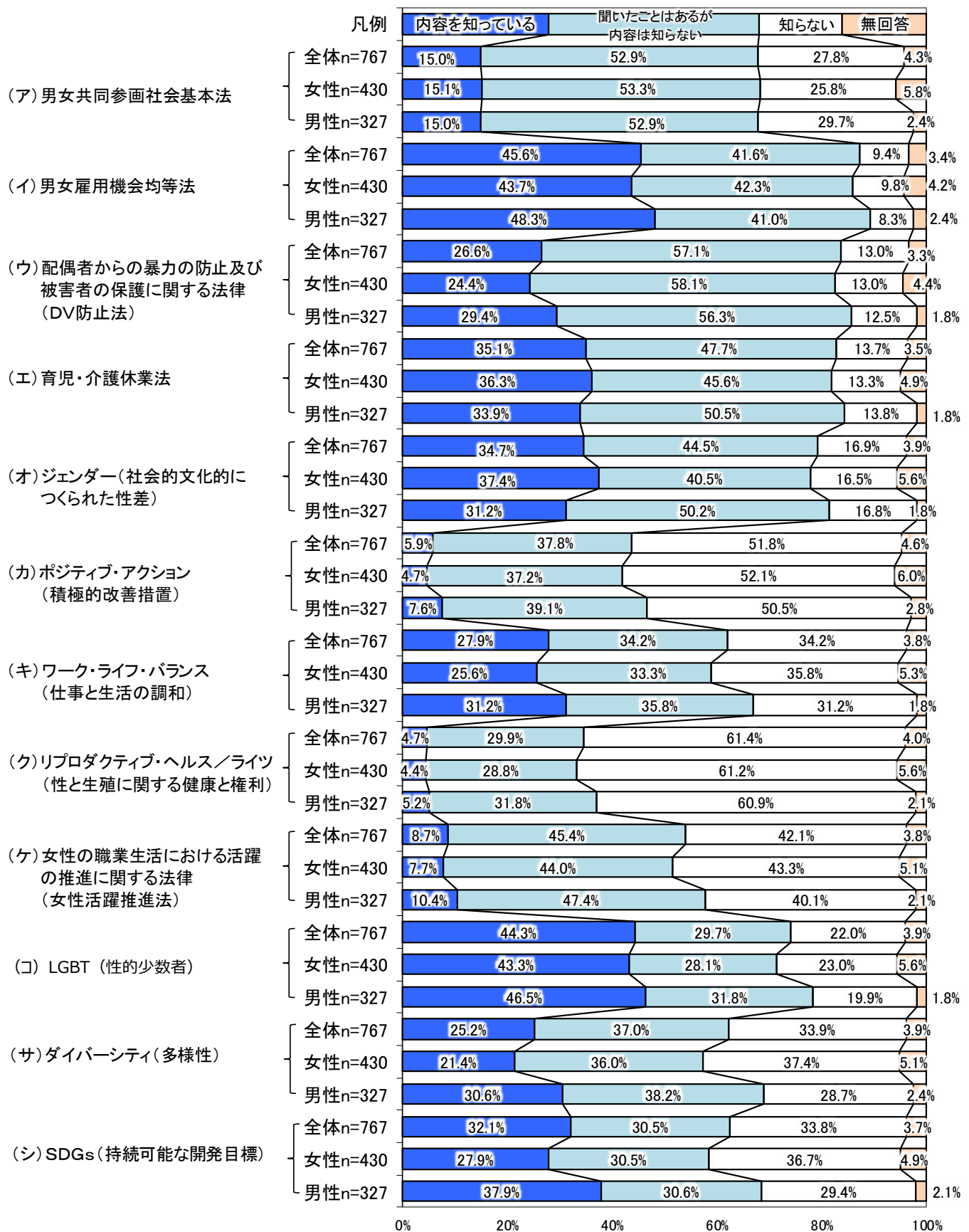
問 20 あなたは、男女共同参画に関する次のような用語を、どの程度ご存じですか。(ア)から(シ)の項目ごとに、あてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

#### <全体の結果>

男女平等に関する法律や用語などの認知状況をみると、「内容を知っている」では「男女雇用機会均等法」の45.6%が最も高く、これに「LGBT（性的少数者）」の44.3%、「育児・介護休業法」の35.1%、「ジェンダー（社会的文化的につくられた性差）」の34.7%が続いている。「聞いたことはあるが内容は知らない」では、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）」の57.1%が最も高く、これに「男女共同参画社会基本法」の52.9%、「育児・介護休業法」の47.7%が続いている。「内容を知っている」と「聞いたことあるが内容は知らない」を合わせた『認知度』をみると、「男女雇用機会均等法」（87.2%）、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）」（83.7%）、「育児・介護休業法」（82.8%）の順で高くなっている。

一方、「知らない」の割合をみると、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）」の61.4%が最も高く、これに「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」の51.8%、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」の42.1%が続く結果となっている。

雇用、DV、育児・介護といった日常生活に関わる用語の認知度は比較的高いが、理念や考え方に関わる用語の認知度が低くなっている。「LGBT（性的少数者）」については比較的短期間のうちに認知度が向上してきていることがうかがえる。



## <前回との比較>

平成 28 年調査と比較すると、「内容を知っている」で 5 ポイント以上の増加した項目は、「ジェンダー（社会的文化的につくられた性差）」（令和 3 年 34.7%、21.0 ポイント増）、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」（令和 3 年 27.9%、8.4 ポイント増）、となっている。「聞いたことはあるが内容は知らない」で 5 ポイント以上の増加した項目は、「男女共同参画社会基本法」（令和 3 年 52.9%、9.3 ポイント増）、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV 防止法）」（令和 3 年 57.1%、5.4 ポイント増）、「ジェンダー（社会的文化的につくられた性差）」（令和 3 年 44.5%、17.4 ポイント増）、「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」（令和 3 年 37.8%、13.7 ポイント増）、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）」（令和 3 年 29.9%、11.8 ポイント増）、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」（令和 3 年 45.4%、15.2 ポイント増）となっている。

一方、「知らない」で 5 ポイント以上減少した項目は「男女共同参画社会基本法」（令和 3 年 27.8%、8.0 ポイント減）、「ジェンダー（社会的文化的につくられた性差）」（令和 3 年 16.9%、35.1 ポイント減）、「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」（令和 3 年 51.8%、12.4 ポイント減）、、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」（令和 3 年 34.2%、8.7 ポイント減）、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）」（令和 3 年 61.4%、10.4 ポイント減）、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」（令和 3 年 42.1%、13.7 ポイント減）となっており、男女共同参画に関わる理念や考え方についての認知度も徐々に向上していることがうかがえる。

以上のことから、男女平等に関する法律や用語などの認知状況は大きく向上していることがうかがえる。

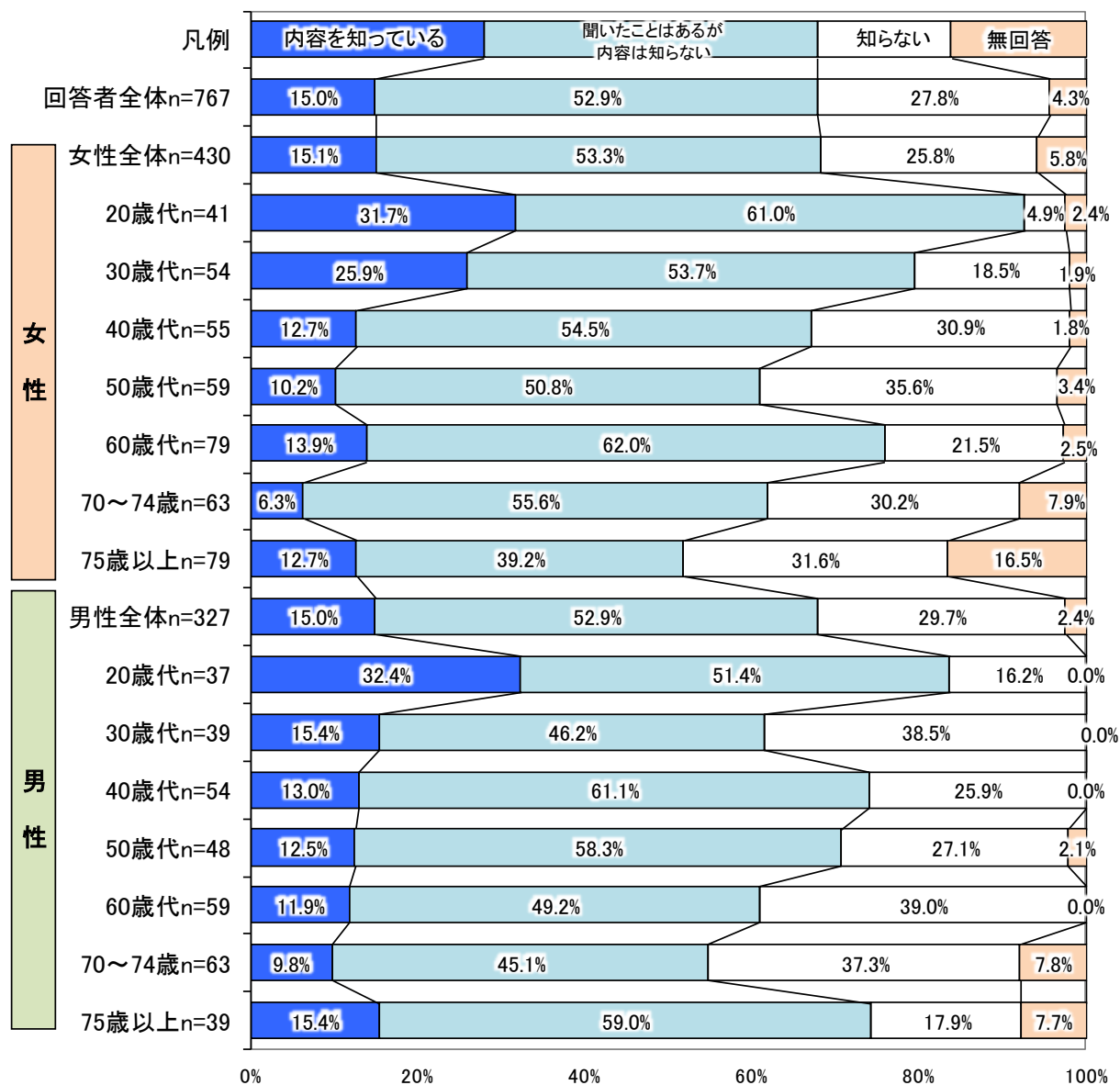
	調査実施年	n	内容を知っている	聞いたことはあるが内容は知らない	知らない	無回答
(ア) 男女共同参画社会基本法	<b>R3年</b>	<b>767</b>	<b>15.0</b>	<b>52.9</b>	<b>27.8</b>	<b>4.3</b>
	H28年	706	14.2	43.6	35.8	6.4
	H23年	787	10.7	43.7	39.4	6.2
(イ) 男女雇用機会均等法	<b>R3年</b>	<b>767</b>	<b>45.6</b>	<b>41.6</b>	<b>9.4</b>	<b>3.4</b>
	H28年	706	42.4	40.7	11.3	5.7
	H23年	787	41.0	42.8	10.0	6.1
(ウ) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)	<b>R3年</b>	<b>767</b>	<b>26.6</b>	<b>57.1</b>	<b>13.0</b>	<b>3.3</b>
	H28年	706	27.5	51.7	14.4	6.4
	H23年	787	23.4	55.5	15.0	6.1
(エ) 育児・介護休業法	<b>R3年</b>	<b>767</b>	<b>35.1</b>	<b>47.7</b>	<b>13.7</b>	<b>3.5</b>
	H28年	706	34.6	45.0	14.2	6.2
	H23年	787	36.8	44.1	12.5	6.6
(オ) ジェンダー (社会的文化的につくられた性差)	<b>R3年</b>	<b>767</b>	<b>34.7</b>	<b>44.5</b>	<b>16.9</b>	<b>3.9</b>
	H28年	706	13.7	27.1	52.0	7.2
	H23年	787	7.9	24.1	61.1	6.9
(カ) ポジティブ・アクション (積極的改善措置)	<b>R3年</b>	<b>767</b>	<b>5.9</b>	<b>37.8</b>	<b>51.8</b>	<b>4.6</b>
	H28年	706	4.1	24.1	64.2	7.6
	H23年	787	2.7	19.4	71.2	6.7
(キ) ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)	<b>R3年</b>	<b>767</b>	<b>27.9</b>	<b>34.2</b>	<b>34.2</b>	<b>3.8</b>
	H28年	706	19.5	30.6	42.9	6.9
	H23年	787	8.8	29.9	54.5	6.9
(ク) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (性と生殖に関する健康と権利)	<b>R3年</b>	<b>767</b>	<b>4.7</b>	<b>29.9</b>	<b>61.4</b>	<b>4.0</b>
	H28年	706	3.5	18.1	71.8	6.5
	H23年	787	2.4	12.6	78.3	6.7
(ケ) 女性の職業生活における活躍の 推進に関する法律(女性活躍推進法)	<b>R3年</b>	<b>767</b>	<b>8.7</b>	<b>45.4</b>	<b>42.1</b>	<b>3.8</b>
	H28年	706	8.2	30.2	55.8	5.8
	H23年	787	—	—	—	—

## <性別及び性・年代別にみた結果>

### 「(ア)男女共同参画社会基本法」

性別による大きな差は認められない。

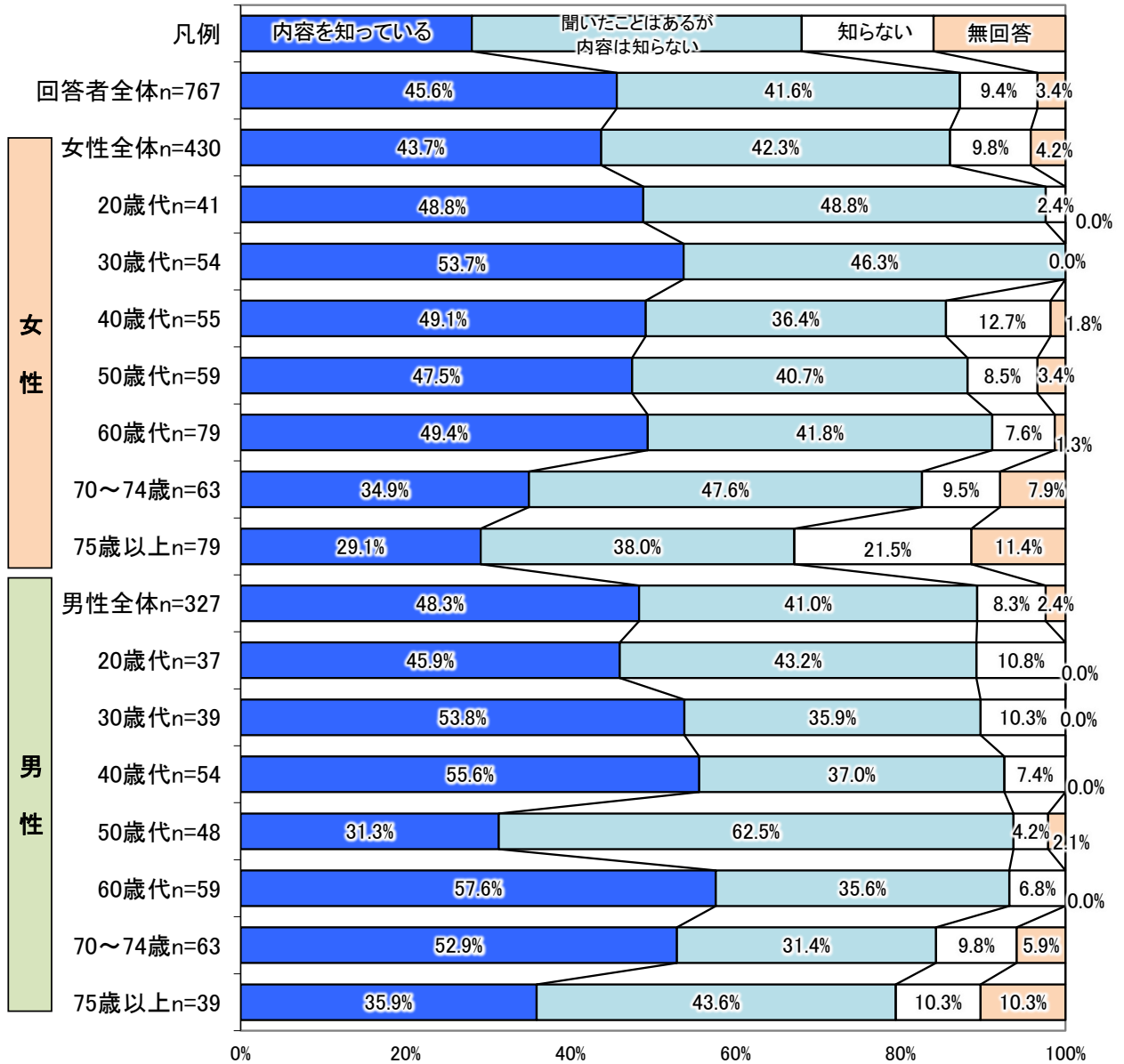
性・年代別にみると、性別に関わりなく「20 歳代」では「内容を知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が高く、認知度が高い。



### 「(イ)男女雇用機会均等法」

性別による大きな差は認められない。

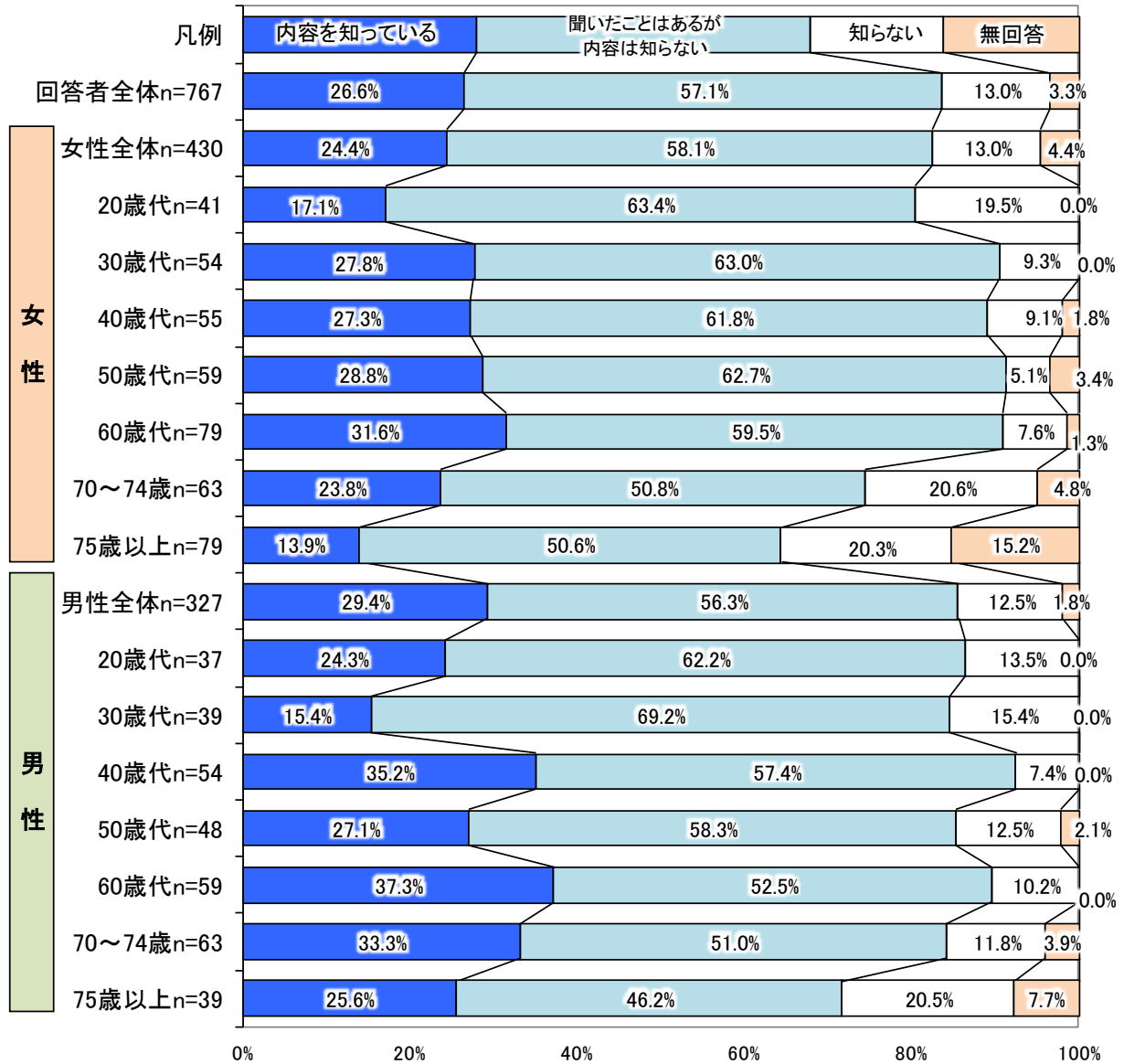
性・年代別にみると、「男性」の『30～40歳代』と『60～74歳』では「内容を知っている」の割合が50%台と高い。「女性」で「内容知っている」の割合が50%台となっているのは「30歳代」のみ。



### 「(ウ)配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)」

性別による大きな差は認められない。

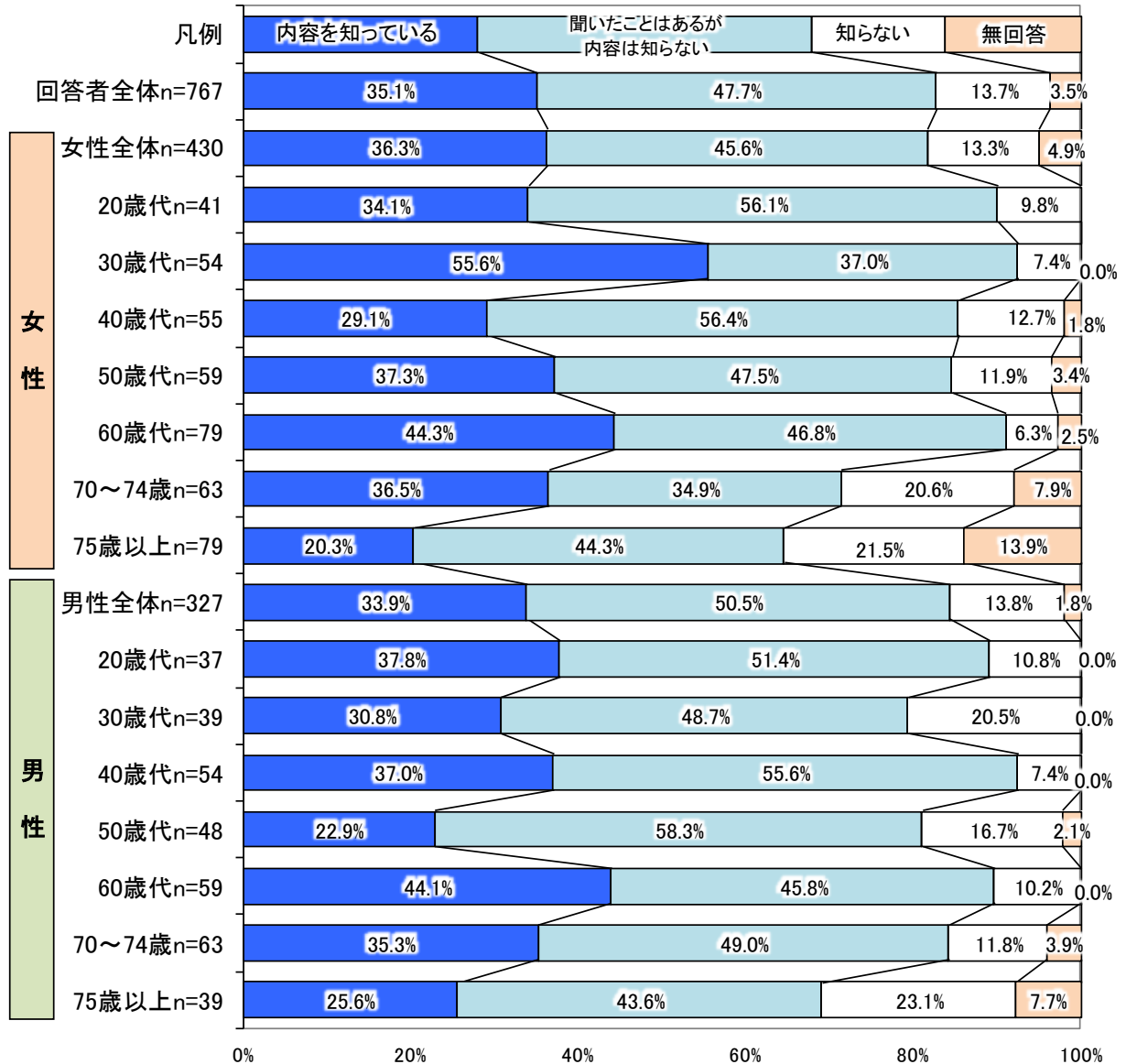
性・年代別にみると、「男性」の「40歳代」と『60～74歳代』では「内容を知っている」の割合が30%台で高い。「女性」で「内容知っている」の割合が30%台となっているのは「60歳代」のみ。



### 「(エ)育児・介護休業法」

性別による大きな差は認められない。

性・年代別にみると、「女性」の「30歳代」と「60歳代」では「内容を知っている」の割合が高く、「男性」では「60歳代」で「内容を知っている」の割合が高くなっている。

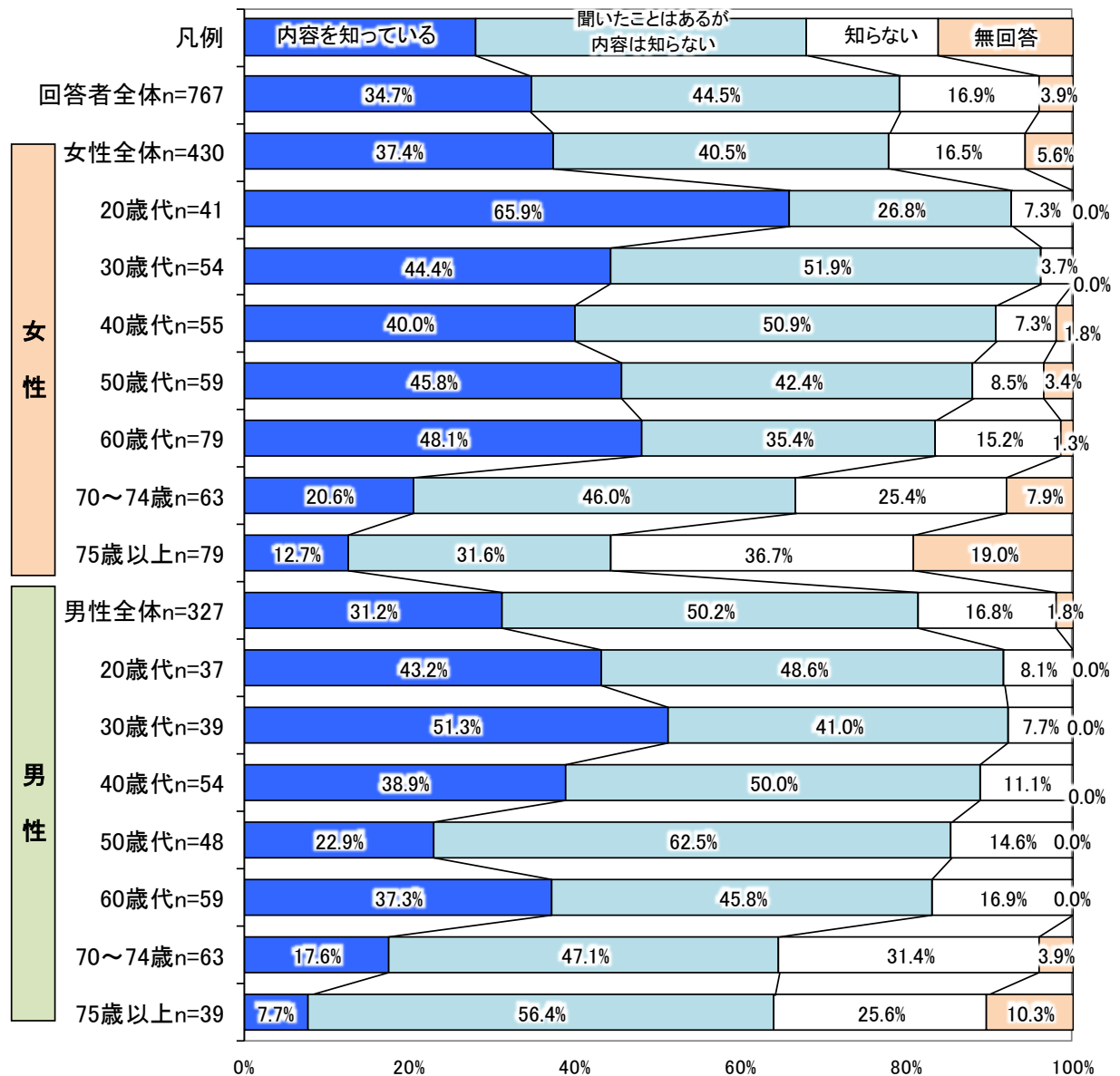




## 「(オ)ジェンダー(社会的文化的につくられた性差)」

「女性」の「内容を知っている」の割合が「男性」よりもやや高いが、性別による大きな差は認められない。

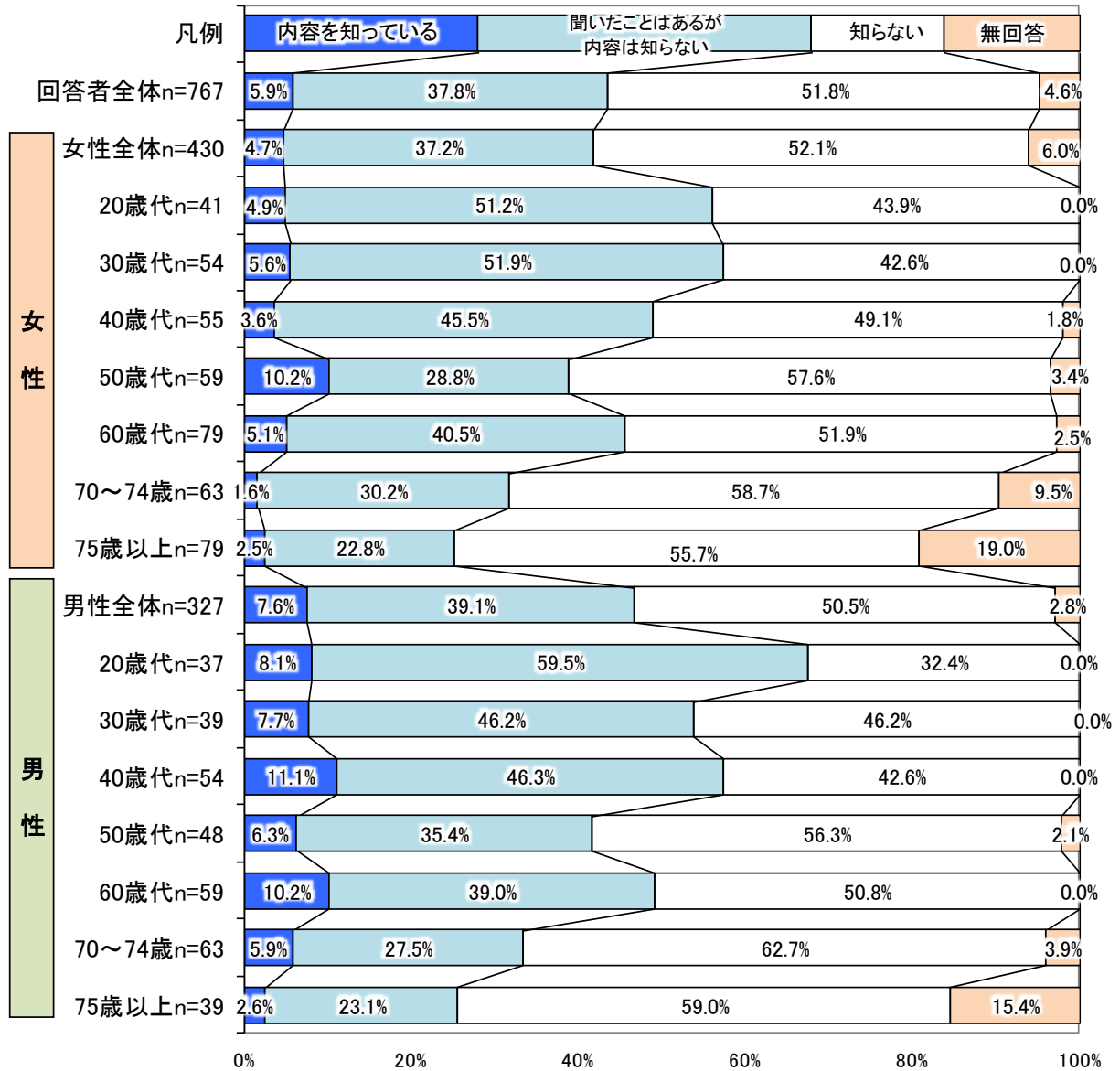
性・年代別にみると、「女性」の「20歳代」では「内容を知っている」の割合が60%台と極めて高く、「男性」の「30歳代」も「内容を知っている」の割合が50%台で高くなっている。一方、「男性」の『70歳以上』では「知らない」の割合が高くなっている。



### 「(カ)ポジティブ・アクション(積極的改善措置)」

性別による差は認められない。

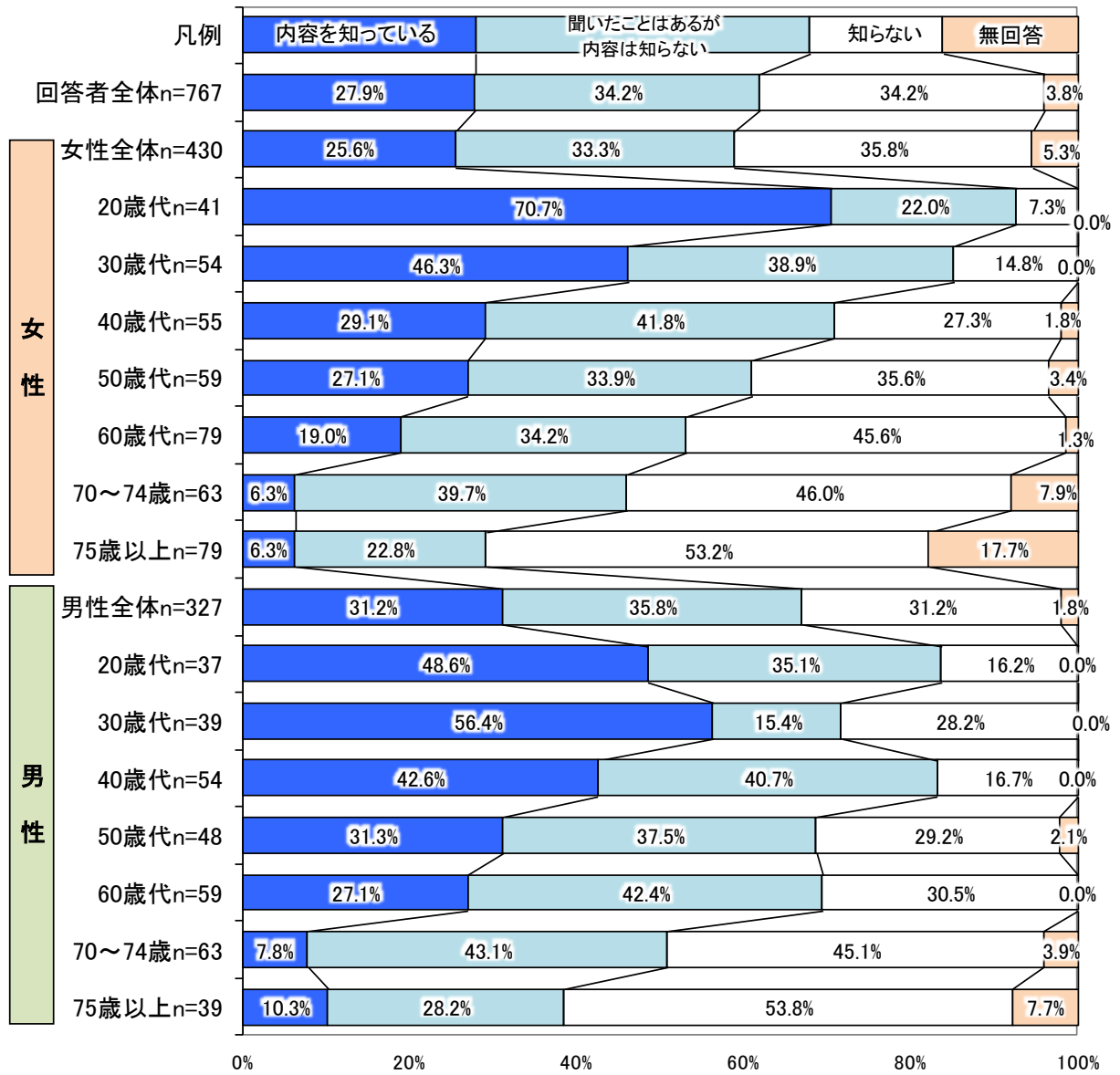
性・年代別にみると、「女性」の『20～30 歳代』と「男性」の「20 歳代」は「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が 50%と高くなっている。また、性別に関わらず『50 歳代以上』では「知らない」の割合が 50%台以上と高くなっている。



### 「(キ)ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」

性別にみると、「男性」で「内容を知っている」の割合が「女性」より高くなっている。

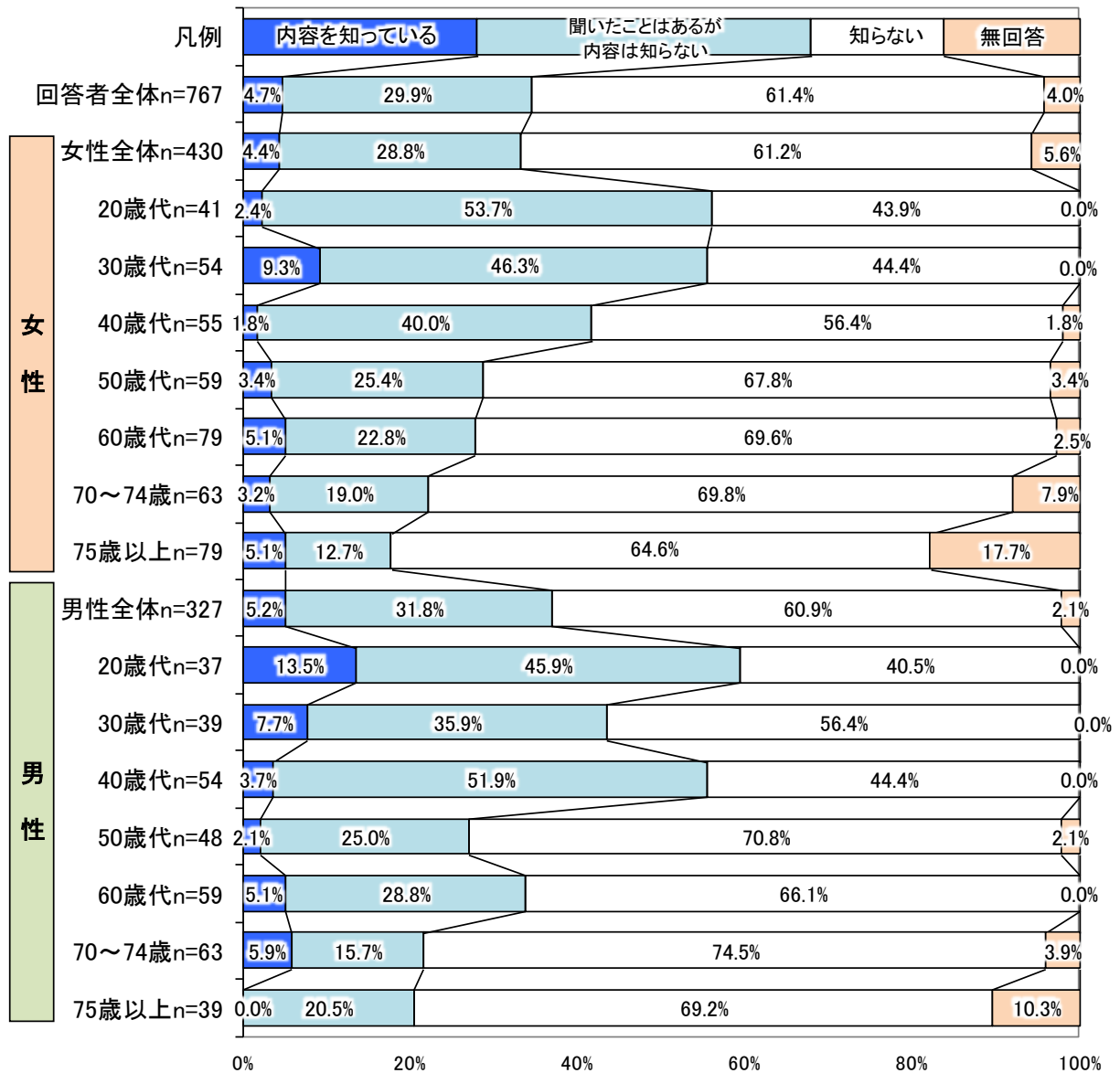
性・年代別にみると、性別に関わらず『20～30 歳代』では「内容を知っている」の割合が高くなっている。



### 「(ク)リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)」

性別による大きな差は認められない。

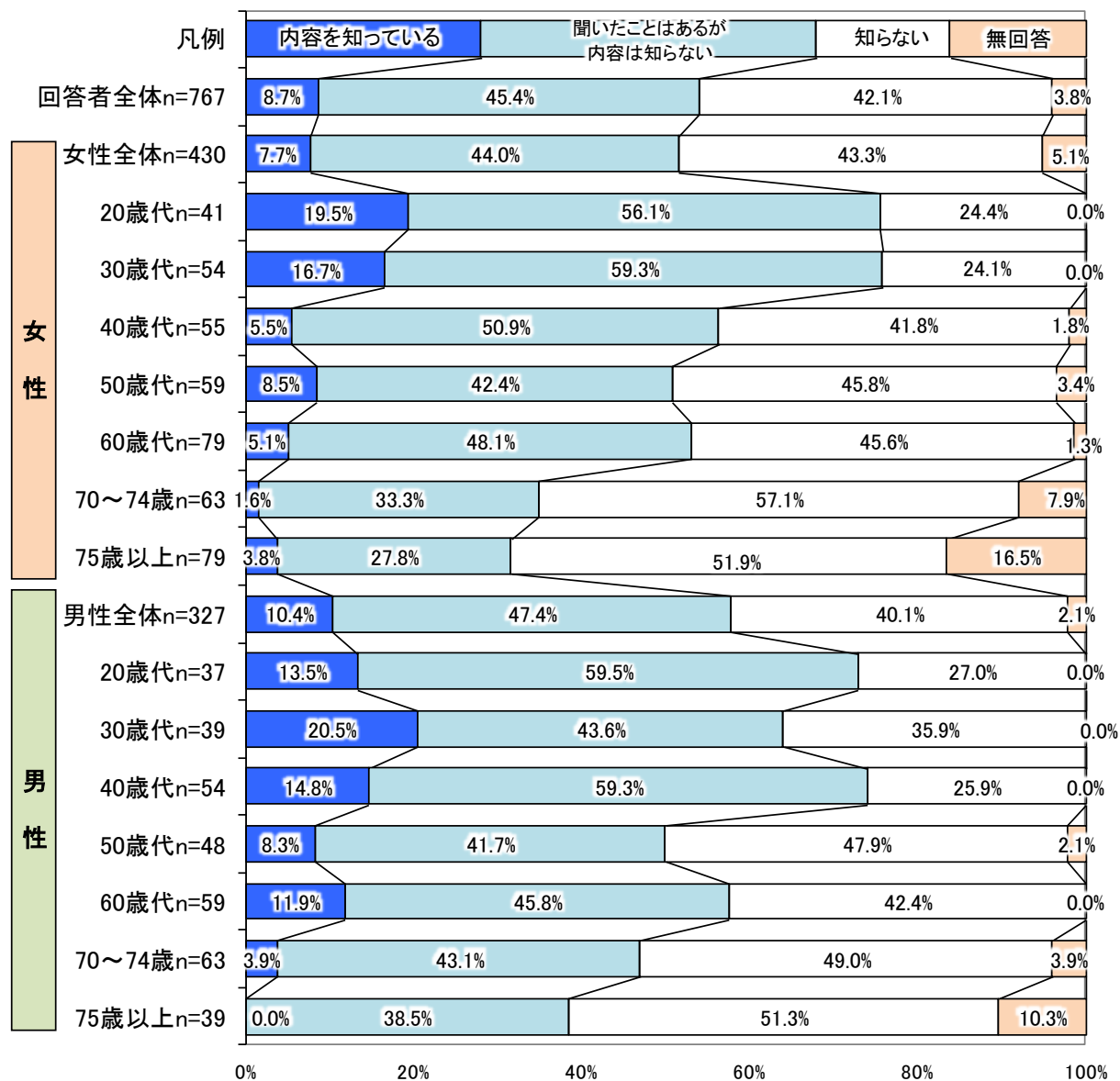
性・年代別にみると、「女性」の『20～30 歳代』と「男性」の『20～40 歳代』では「内容を知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせた認知度が高い。



## 「(ケ)女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)」

性別にみると、「男性」で「内容を知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が「女性」よりやや高くなっている。

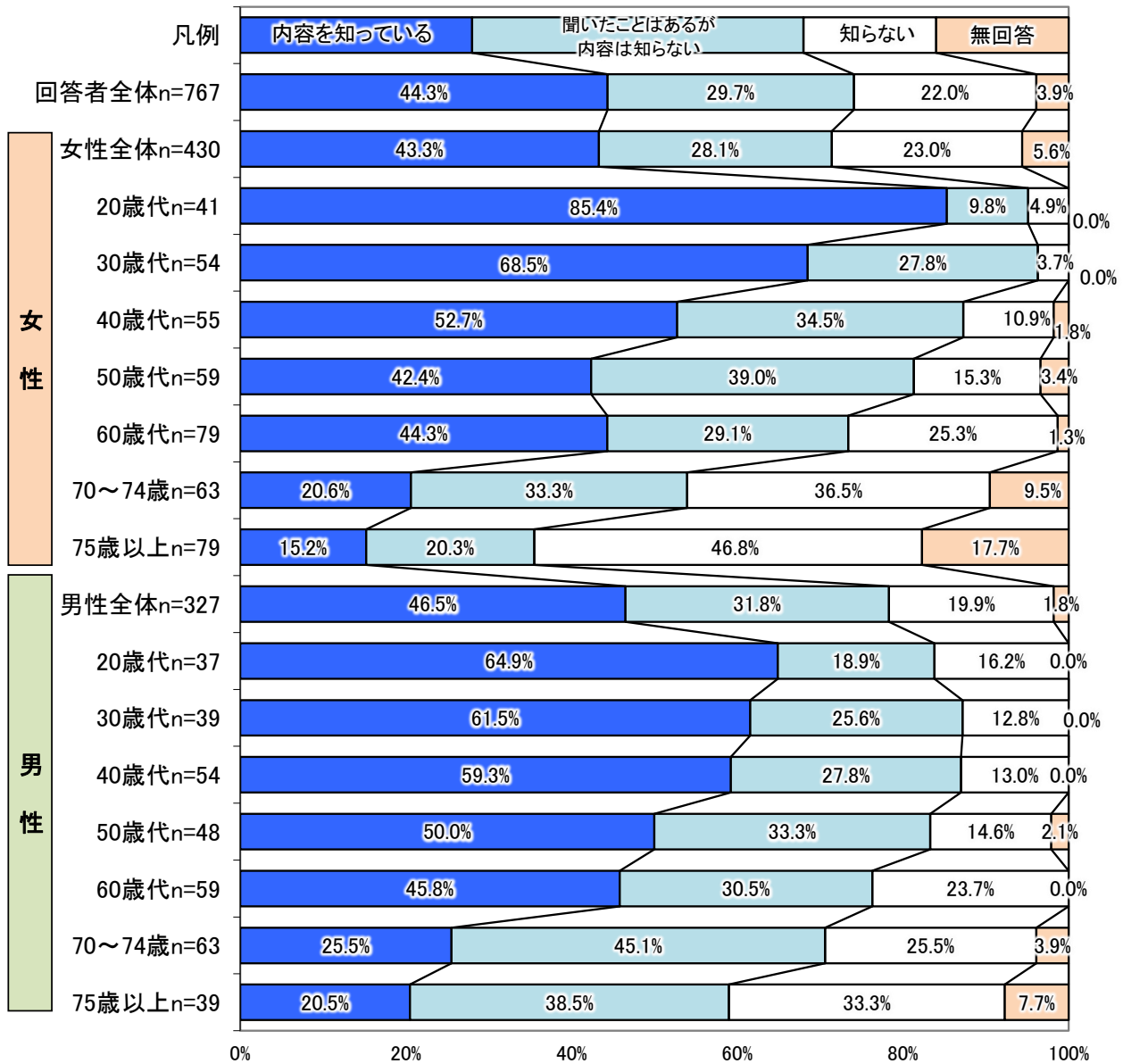
性・年代別にみると、「女性」の『20～30歳代』と「男性」の『20～40歳代』では「内容を知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせた認知度が高い。



### 「(コ)LGBT(性的少数者)」

性別にみると、「男性」で「内容を知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が「女性」よりやや高くなっている。

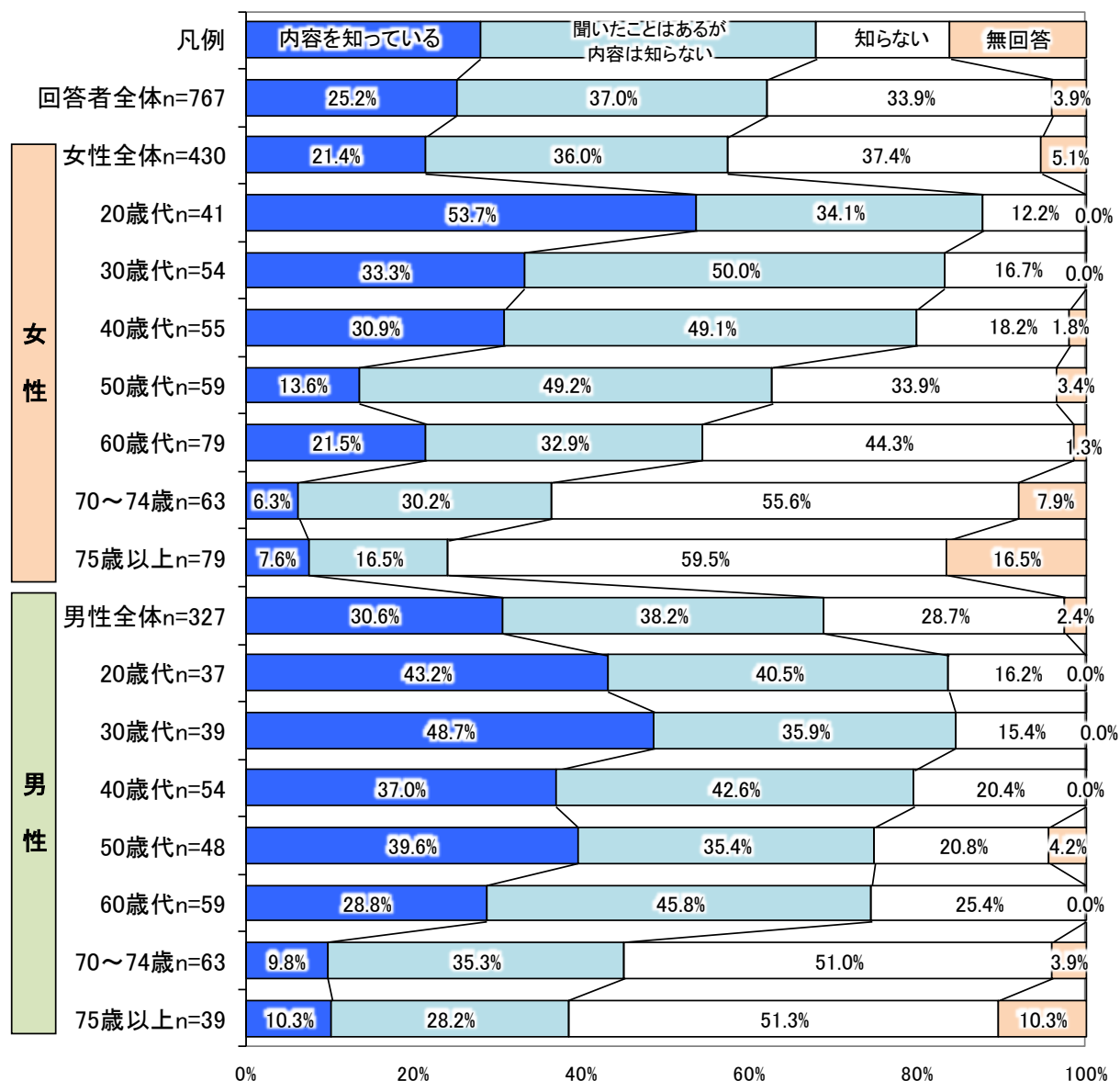
性・年代別にみると、性別に関わりなく「20歳代」で「内容を知っている」の割合が最も高く、以下、年代が上がるにつれて「内容を知っている」の割合が低くなっている。



### 「(サ)ダイバーシティ(多様性)」

性別にみると、「男性」で「内容を知っている」の割合が「女性」より高くなっている。

性・年代別にみると、性別に関わりなく「女性」の「20歳代」と「男性」の「30歳代」が「内容を知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせた認知度が最も高く、以下、年代が上がるにつれて認知度が低くなっている。

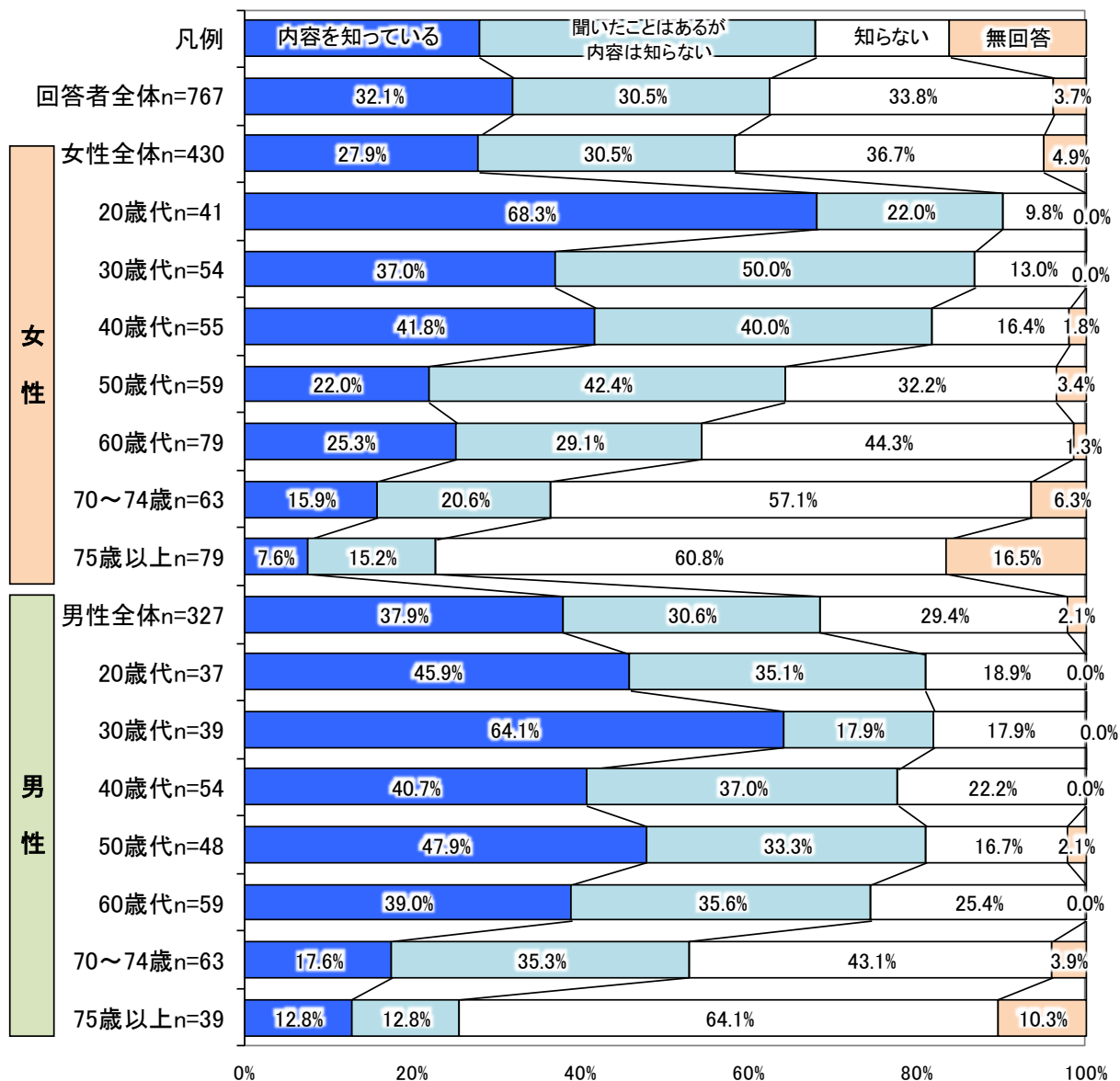


### 「(シ)SDGs(持続可能な開発目標)」

性別にみると、「男性」で「内容を知っている」の割合が「女性」より高くなっている。

性・年代別にみると、「女性」では「20歳代」が「内容を知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせた認知度が最も高く、以下、年代が上がるにつれて認知度が低くなっている。

「男性」では『20～60歳代』までの認知度が70%台以上と高くなっている。





## 2 男女の地位の平等観

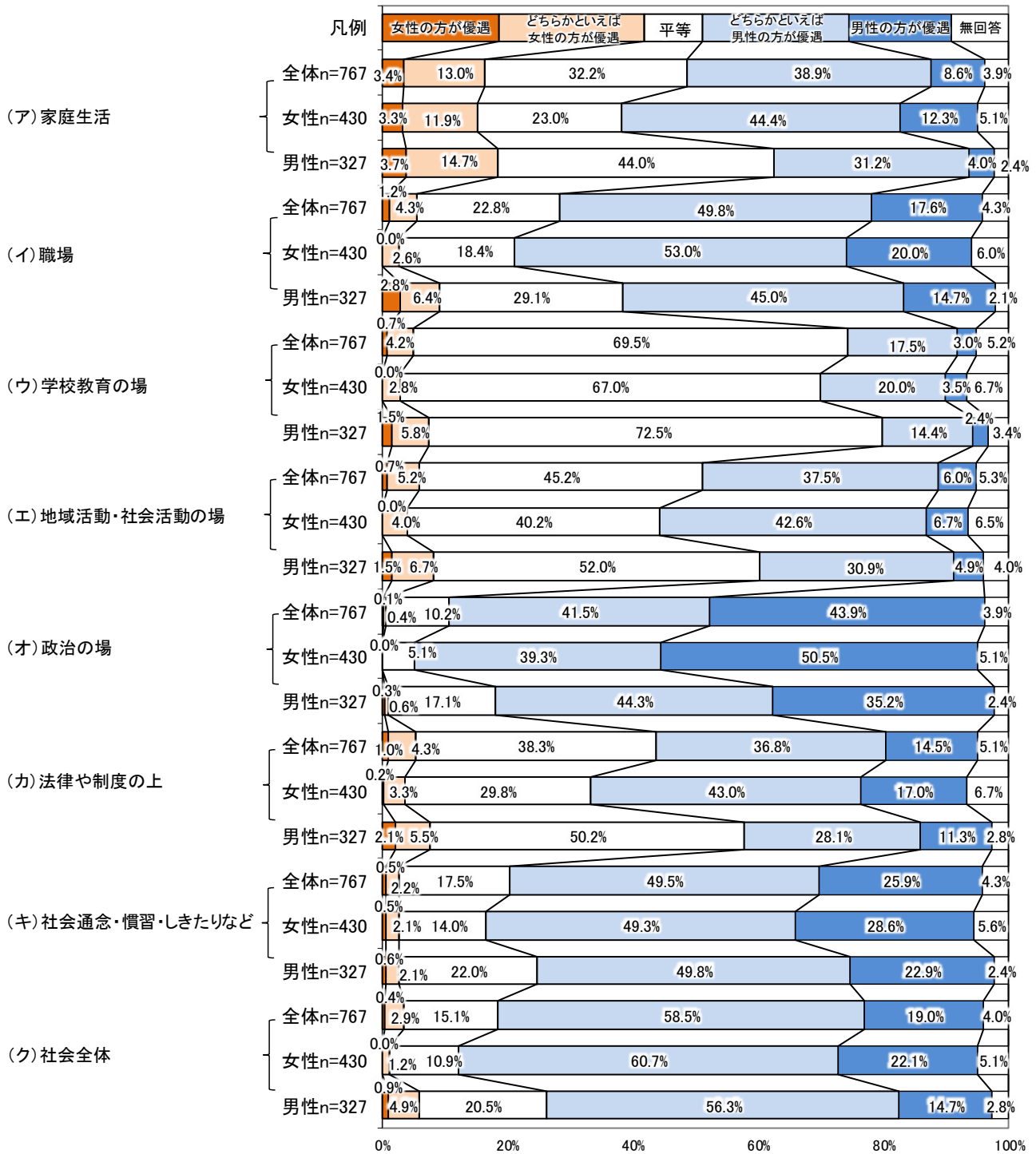
問 21 あなたは、次にあげるような分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。(ア)から(ク)の分野ごとに、あてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

### <全体の結果>

男女の地位の平等観をみると、「社会全体」では『男性の方が優遇』（「男性の方が優遇」＋「どちらかといえば男性の方が優遇」）が77.5%となり、「平等」15.1%、『女性の方が優遇』（「女性の方が優遇」＋「どちらかといえば女性の方が優遇」）3.3%となっており、男性の方が優遇されていると思っている人の割合が7割近くを占める結果となっている。

『女性の方が優遇』を分野別にみると、「家庭生活」の16.4%が最も高くなっているが、「職場」や「学校教育の場」など他の項目では10%に満たない割合となっている。「平等」を分野別にみると、「学校教育の場」の69.5%が最も高く、これに「地域活動・社会活動の場」の45.2%、「法律や制度の上」の38.3%が続いている。『男性の方が優遇』を分野別にみると、「政治の場」の85.4%が最も高く、これに「社会通念・慣習・しきたりなど」の75.4%、「職場」の67.4%が続いている。

全般的に男性の優遇感が高いものの、家庭や地域、学校など身近なところでは男女平等と思っている人の割合が高くなっているが、職場や政治など組織や団体活動に関わる場所では男性優遇と思っている人の割合が高くなっている。



## <前回との比較>

平成 28 年調査と比較すると、「社会全体」では「平等」が 7.1 ポイント減少し、その分、『男性の方が優遇』（「男性の方が優遇」＋「どちらかといえば男性の方が優遇」）が 9.8 ポイント増加している。

『女性の方が優遇』（「女性の方が優遇」＋「どちらかといえば女性の方が優遇」）で 5 ポイント以上増減した分野はない。「平等」で 5 ポイント以上減少した分野は、「政治の場」（令和 3 年 10.2%、6.7 ポイント減）の 1 分野となっている。『男性の方が優遇』で 5 ポイント以上増減した分野は、「家庭生活」（令和 3 年 47.5%、5.3 ポイント増）、「学校教育の場」（令和 3 年 20.5%、7.0 ポイント増）、「地域活動・社会活動の場」（令和 3 年 43.5%、5.1 ポイント増）、「政治の場」（令和 3 年 85.4%、10.8 ポイント増）、「法律や制度の上」（令和 3 年 51.3%、5.0 ポイント増）、「社会通念・慣習・しきたりなど」（令和 3 年 75.4%、6.2 ポイント増）の 6 分野となっている。

この 5 年間で男性優遇が増加し、平等と思う人の割合が減少したのは、職場を除く全ての分野となっている。

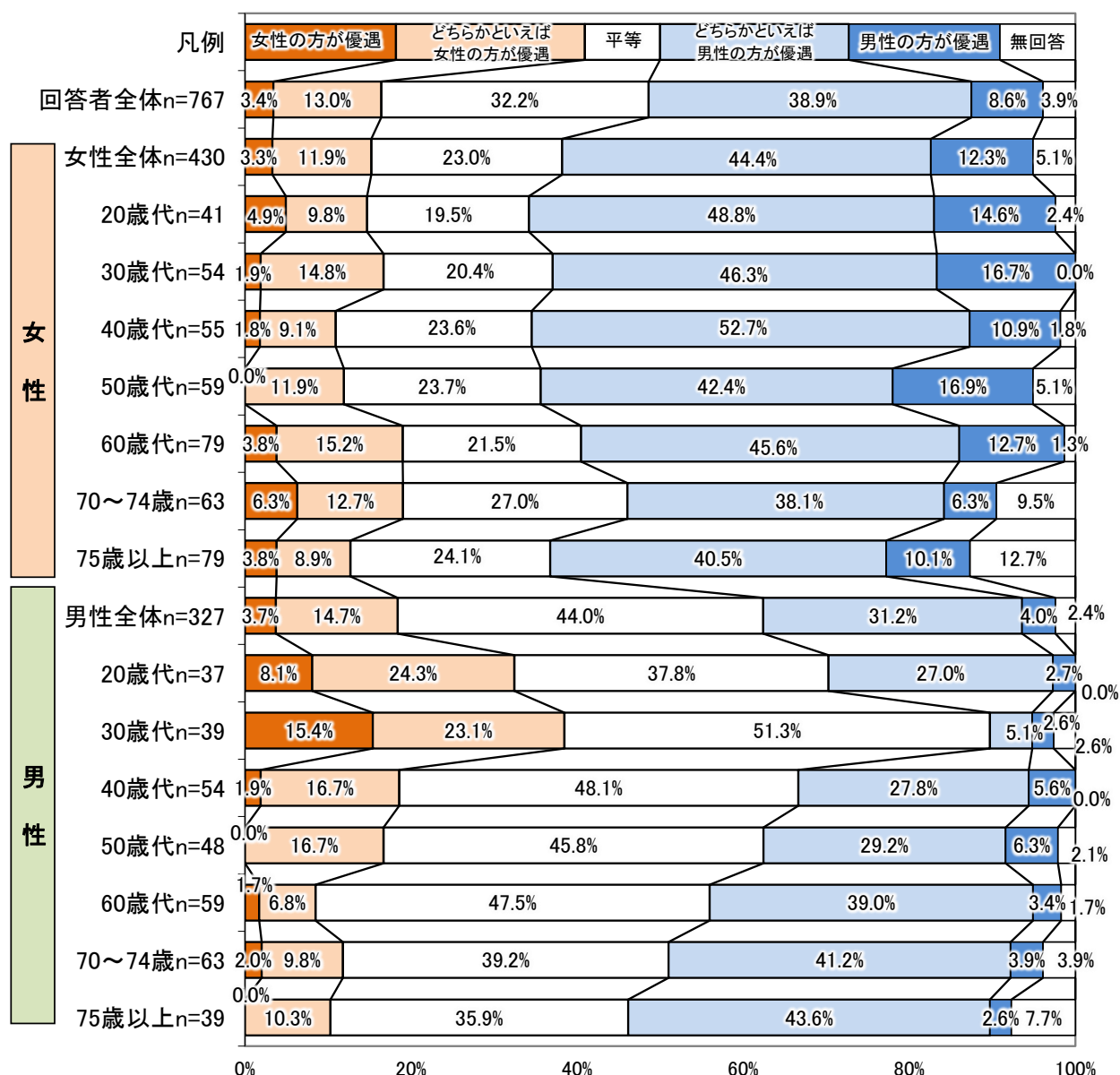
	調査実施年	n	女性の方が優遇	平等	男性の方が優遇	無回答
(ア) 家庭生活	R3年	767	16.4	32.2	47.5	3.9
	H28年	706	17.0	35.6	42.2	5.2
	H23年	787	13.9	30.4	49.9	5.8
(イ) 職場	R3年	767	5.5	22.8	67.4	4.3
	H28年	706	6.5	20.5	67.2	5.8
	H23年	787	5.8	19.6	68.5	6.2
(ウ) 学校教育の場	R3年	767	4.9	69.5	20.5	5.2
	H28年	706	5.1	74.2	13.5	7.2
	H23年	787	3.4	65.9	21.6	9.0
(エ) 地域活動・社会活動の場	R3年	767	5.9	45.2	43.5	5.3
	H28年	706	6.8	48.0	38.4	6.8
	H23年	787	6.3	39.0	47.2	7.5
(オ) 政治の場	R3年	767	0.5	10.2	85.4	3.9
	H28年	706	1.9	16.9	74.6	6.7
	H23年	787	0.9	16.1	76.2	6.7
(カ) 法律や制度の上	R3年	767	5.3	38.3	51.3	5.1
	H28年	706	5.2	41.5	46.3	6.9
	H23年	787	4.3	40.5	47.9	7.2
(キ) 社会通念・慣習・しきたりなど	R3年	767	2.7	17.5	75.4	4.3
	H28年	706	3.5	21.0	69.2	6.2
	H23年	787	2.5	14.1	77.3	6.1
(ク) 社会全体	R3年	767	3.3	15.1	77.5	4.0
	H28年	706	3.8	22.2	67.7	6.2
	H23年	787	2.5	15.8	74.9	7.0

## <性別及び性・年代別にみた結果>

### 「(ア)家庭生活」

性別にみると、「女性」で「どちらかといえば男性優遇」と「男性優遇」の割合が「男性」より高く、「男性」では「平等」の割合が「女性」より高くなっている。

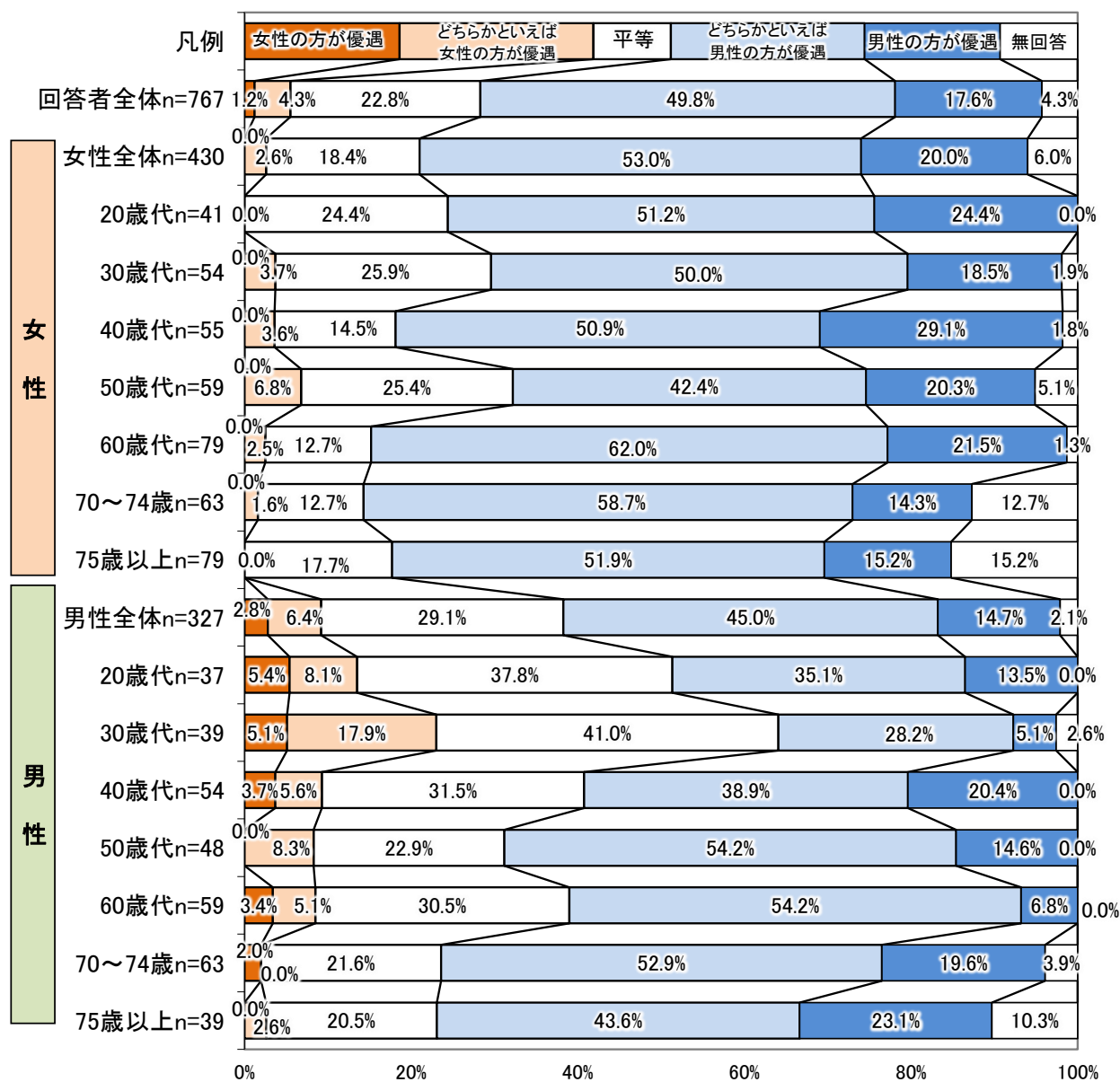
性・年代別にみると、「男性」の『20～30歳代』では「女性優遇」と「どちらかといえば女性優遇」の割合が高くなっているほか、「男性」の「30歳代」では「平等」の割合が50%台と極めて高くなっている。また「男性」の『40歳代以上』では年代が高くなるほど「どちらかといえば男性優遇」の割合が高くなる傾向が認められる。



### 「(イ)職場」

性別にみると、「女性」で「男性優遇」の割合が「男性」より高く、「男性」では「平等」の割合が「女性」より高くなっている。

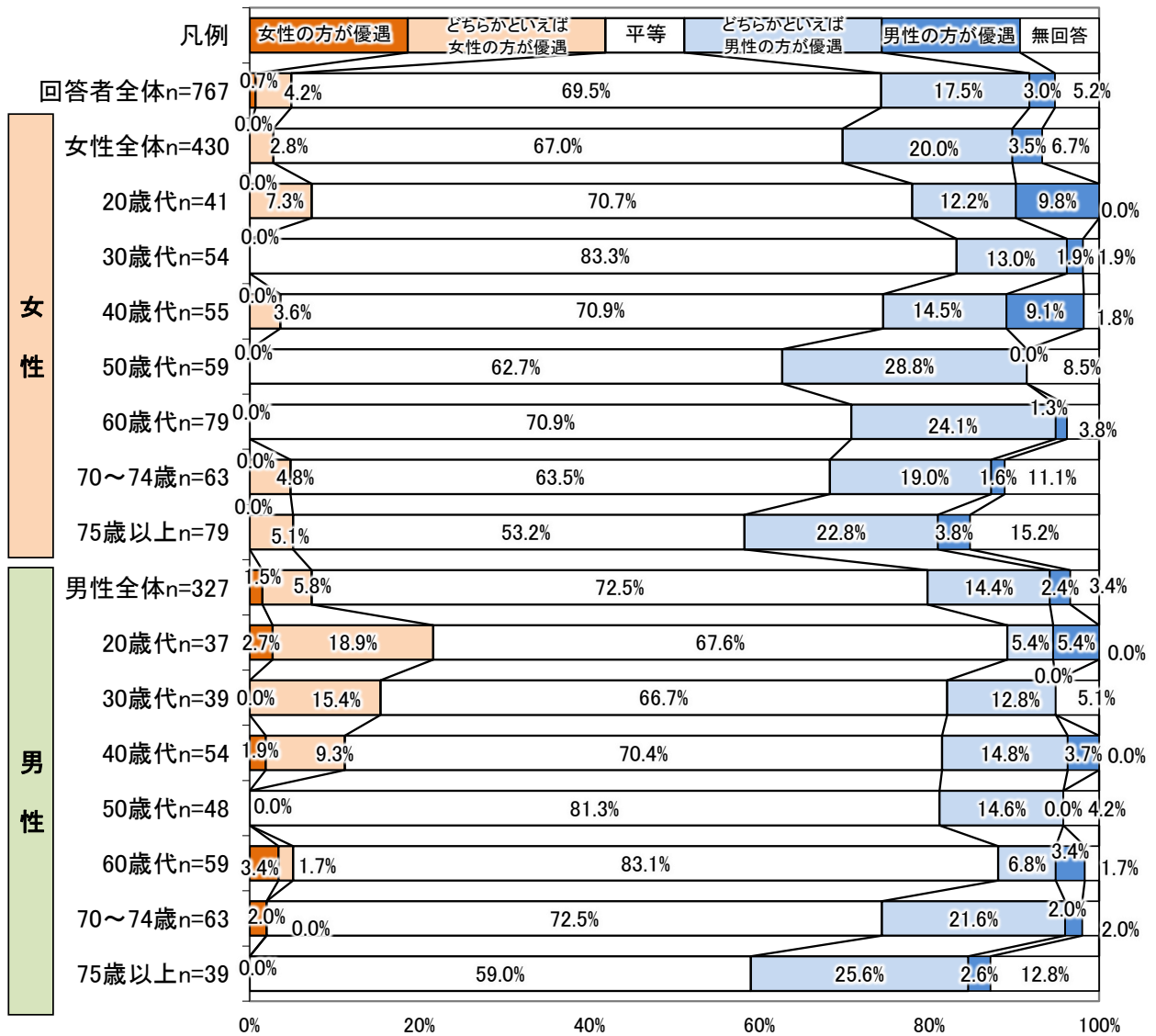
性・年代別にみると、「男性」の『20～30歳代』では「女性優遇」と「どちらかといえば女性優遇」の割合が高い。また「男性」の『70歳代以上』と「女性」の『60歳以上』では「どちらかといえば男性優遇」と「男性優遇」の割合が高くなっている。



### 「(ウ)学校教育の場」

性別にみると、「男性」の「平等」の割合が「女性」よりやや高くなっている。

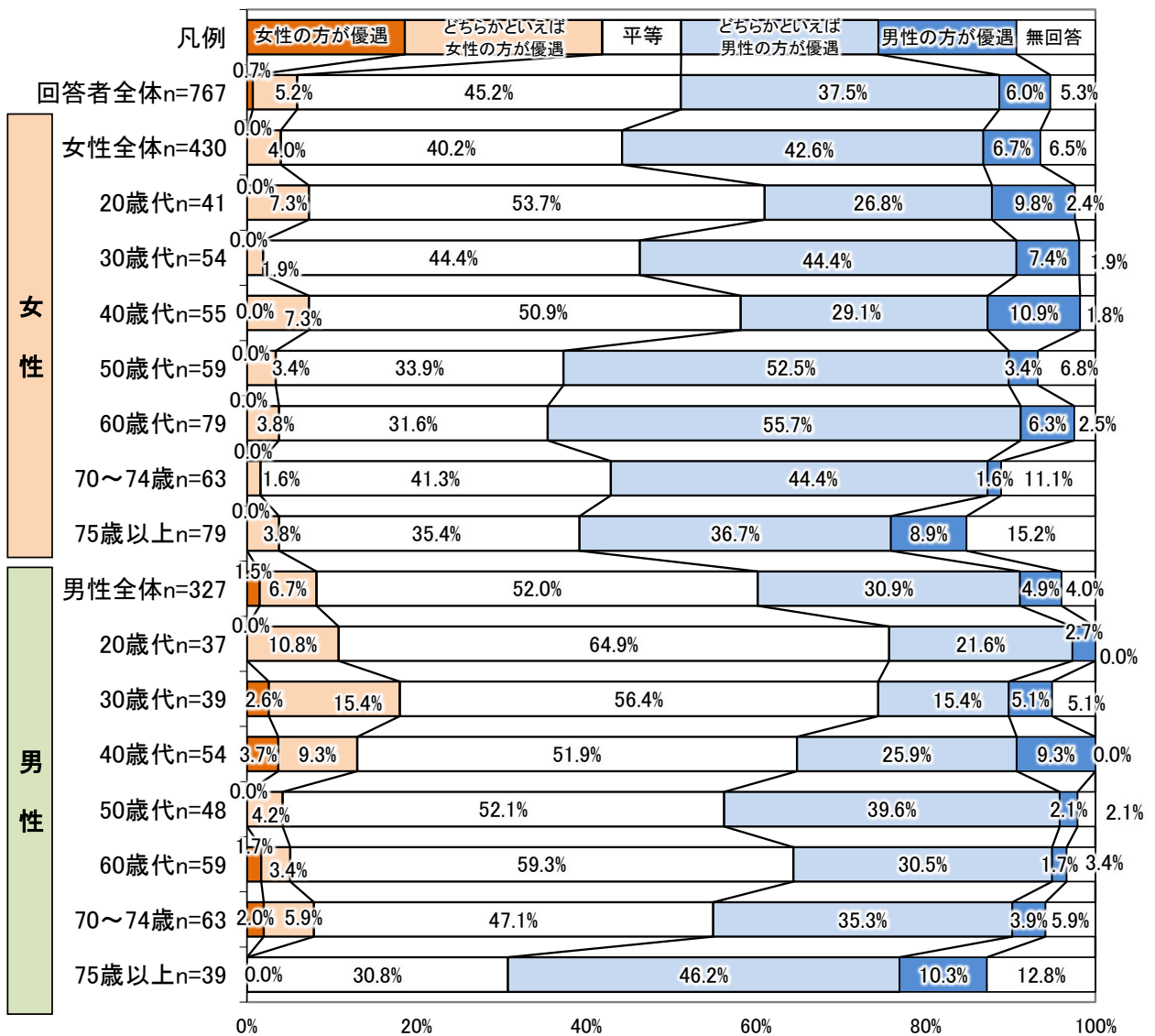
性・年代別にみると、「女性」の『20～40歳代』では「平等」の割合が高いが、「女性」の「50歳代」と『70歳以上』では「どちらかといえば男性優遇」の割合が高くなっている。「男性」の『50～74歳』では「平等」の割合が高いが、『40歳代以下』では「どちらかといえば女性優遇」、『70歳以上』では「どちらかといえば男性優遇」の割合が高くなっている。



### 「(エ)地域活動・社会活動の場」

性別にみると、「女性」で「どちらかといえば男性優遇」の割合が「男性」より高く、「男性」では「平等」の割合が「女性」より高くなっている。

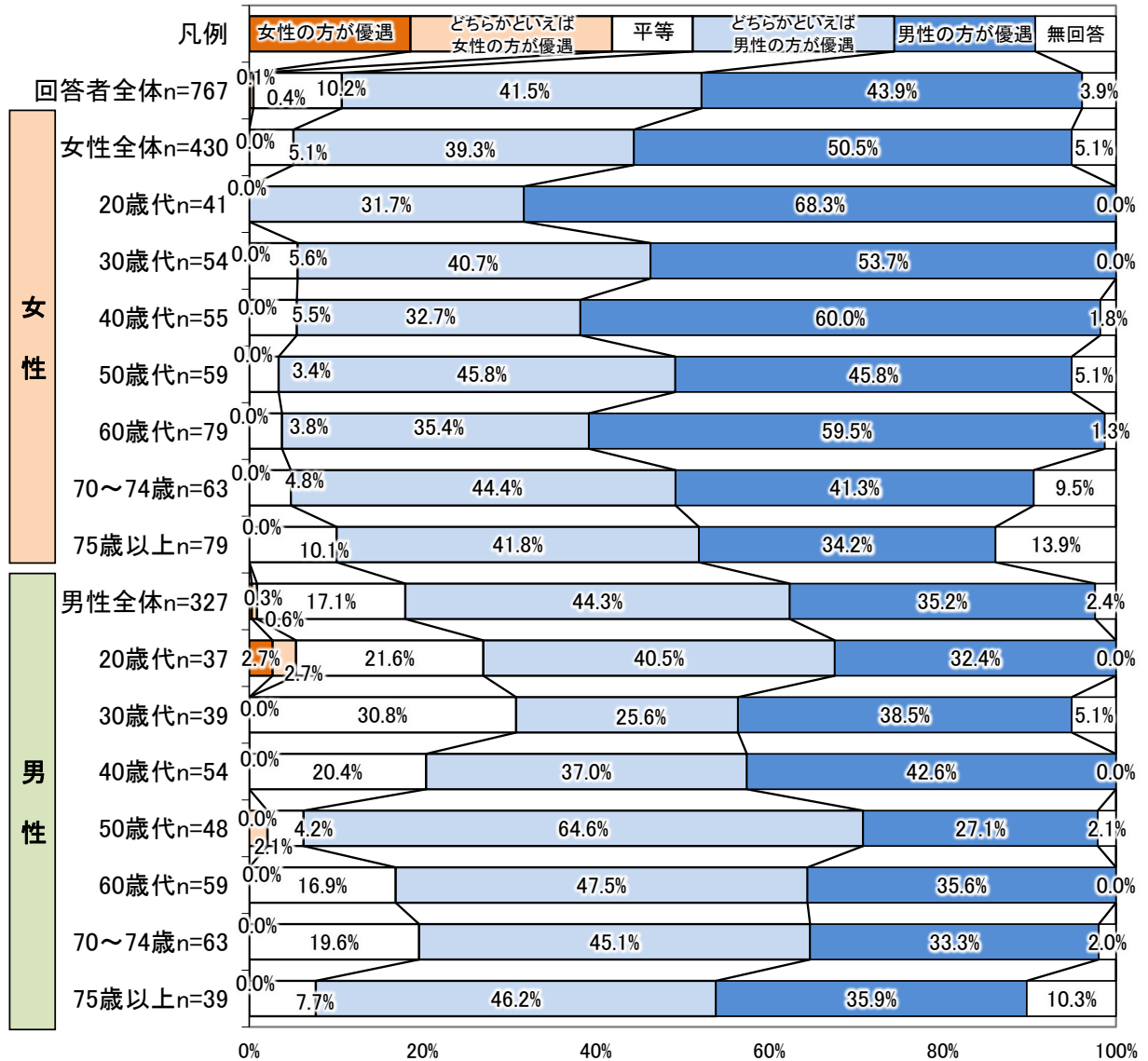
性・年代別にみると、「女性」の「20歳代」と「40歳代」では「平等」の割合が高いが、「女性」の『50歳代以上』では「どちらかといえば男性優遇」の割合が高くなっている。「男性」の『20～60歳代』と「70～74歳」では「平等」の割合が高い。



## 「(オ)政治の場」

性別にみると、「女性」で「男性優遇」の割合が「男性」より高く、「男性」では「平等」の割合が「女性」より高くなっている。

性・年代別にみると、「女性」のすべての年代で「男性優遇」と「どちらかといえば男性優遇」の割合が高くなっている。「男性」の『20～40歳代』、『60～74歳』では「平等」の割合がやや高くなっている。

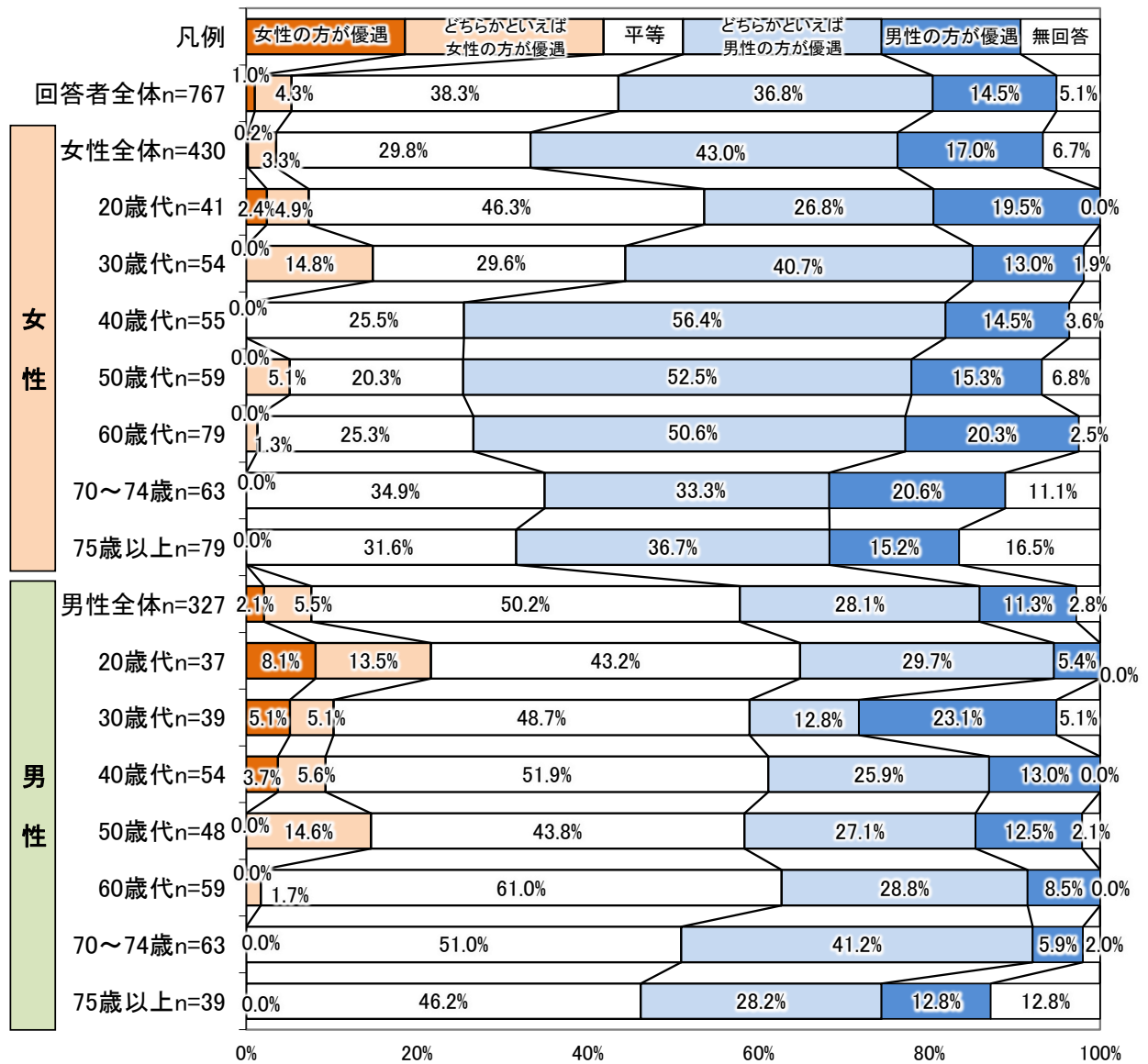




### 「(カ) 法律や制度の上」

性別にみると、「女性」で「どちらかといえば男性優遇」と「男性優遇」の割合が「男性」より高く、「男性」では「平等」の割合が「女性」より高くなっている。

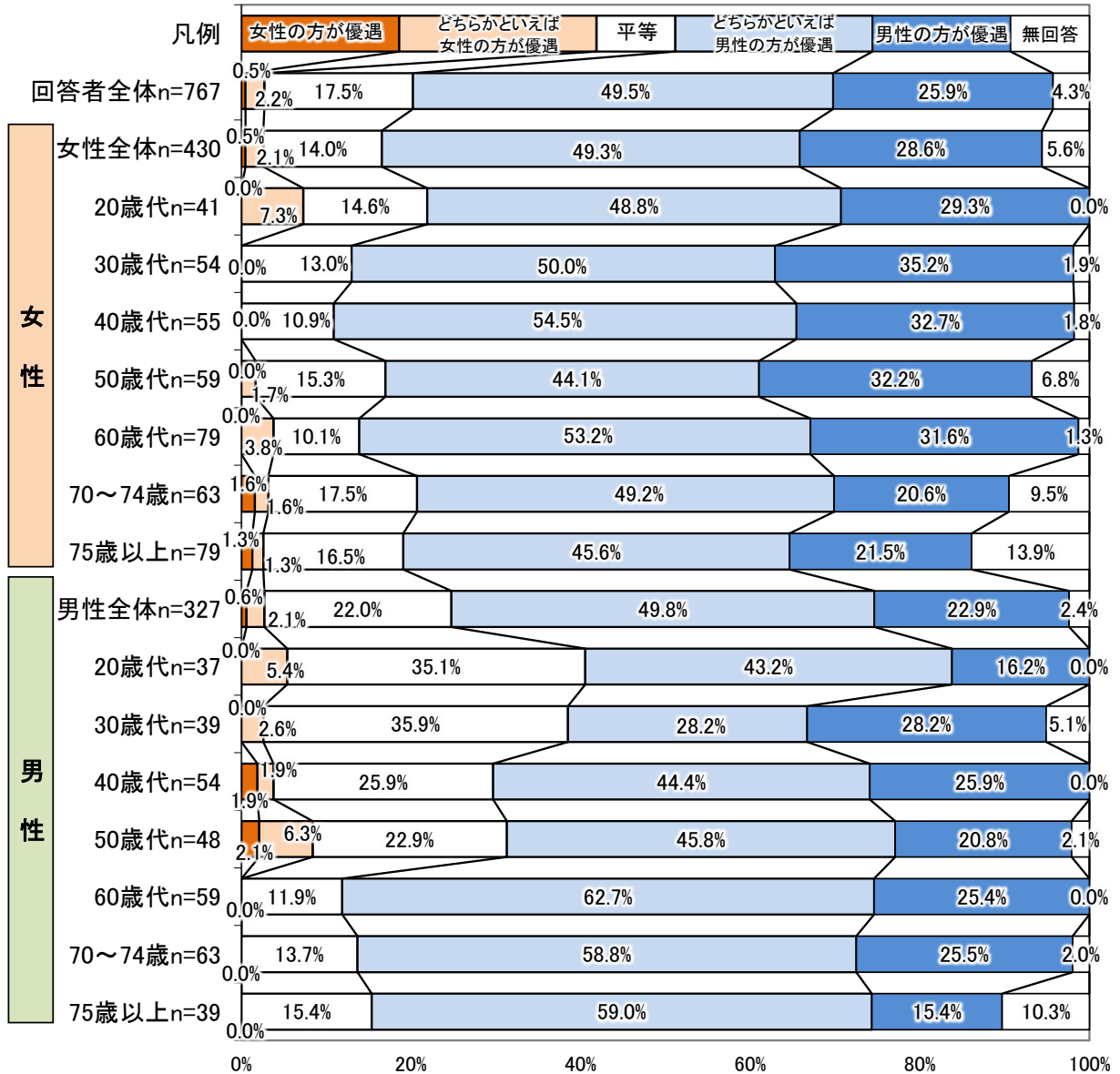
性・年代別にみると、「女性」の『40～60歳代』では「どちらかといえば男性優遇」、「20～30歳代」と『70歳以上』は「平等」の割合が高くなっている。「男性」はすべての年代で「平等」の割合が高いが、『70歳以上』では「どちらかといえば男性優遇」または「男性優遇」の割合が高い。



### 「(キ)社会通念・慣習・しきたりなど」

性別による大きな差は認められない。

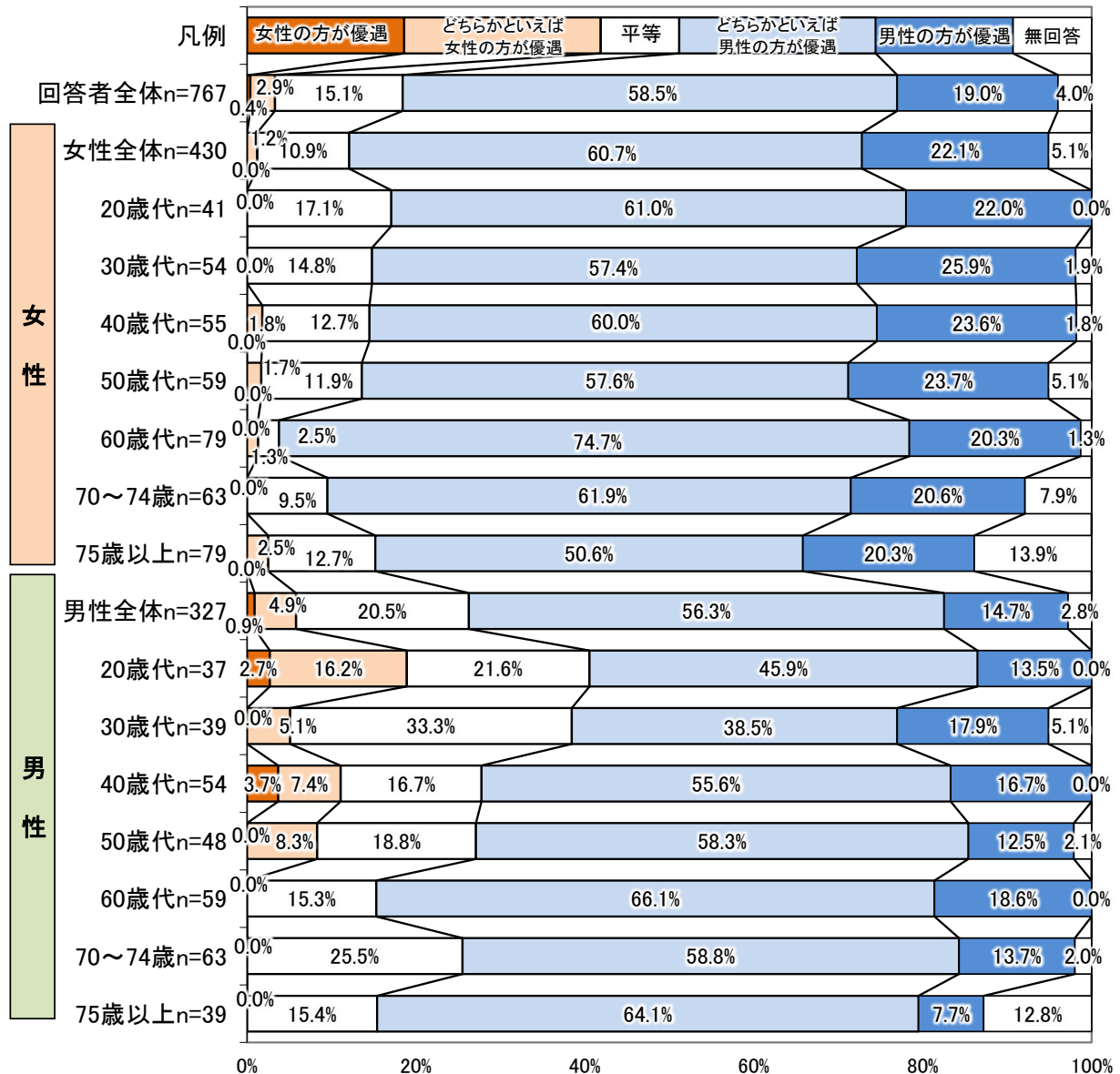
性・年代別にみると、「女性」の『20～60 歳代』では「どちらかといえば男性優遇」と「男性優遇」を合わせた割合が 70%台以上となっている。「男性」の『20～50 歳代』で「平等」の割合が高く、『60 歳代以上』では「どちらかといえば男性優遇」の割合が高くなっている。



## 「(ク)社会全体」

性別にみると、「女性」で「どちらかといえば男性優遇」と「男性優遇」の割合が「男性」より高く、「男性」では「平等」の割合が「女性」より高くなっている。

性・年代別にみると、「女性」ではすべての年代で「男性優遇」と「どちらかといえば男性優遇」の割合が高く、なかでも「女性」の「60歳代」では「どちらかといえば男性優遇」と「男性優遇」を合わせた割合が95%を占めている。「男性」の『20～30歳代』と「70～74歳」では「平等」、「20歳代」では「どちらかといえば女性優遇」の割合が高い。

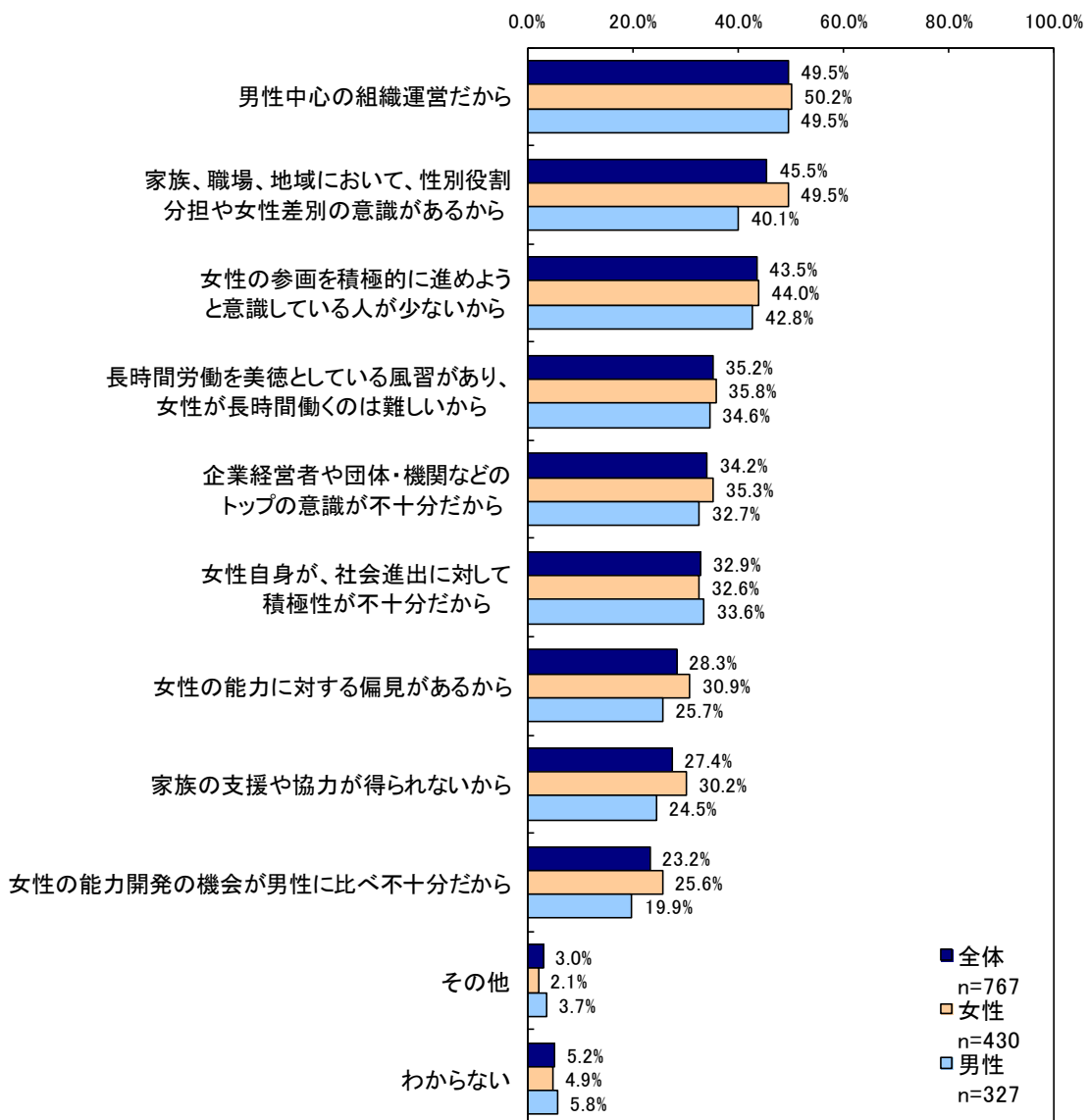


### 3 社会を動かす役職に女性が少ない理由

問 22 あなたは、政治や行政、企業などの様々な分野において、管理職等への登用など企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は何だと思えますか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

#### <全体の結果>

政治や行政、企業などの様々な分野において、管理職等への登用など企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由をみると、「男性中心の組織運営だから」の49.5%が最も多く、これに「家族、職場、地域において、性別役割分担や女性差別の意識があるから」の45.5%が続いている。以下、回答割合の高い方から「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ないから」(43.5%)、「長時間労働を美德としている風習があり、女性が長時間働くのは難しいから」(35.2%)の順となっている。



## <前回との比較>

平成 28 年調査と比較して 5 ポイント以上の増減した項目は、「家族、職場、地域において、性別役割分担や女性差別の意識があるから」（令和 3 年 45.5%、9.2 ポイント増）となっている。

	平成23年 n=787 %	平成28年 n=706 %	令和3年 n=767 %
女性自身が、社会進出に対して積極性が不十分だから	35.5	37.7	32.9
家族、職場、地域において、性別役割分担や女性差別の意識があるから	38.0	36.3	45.5
家族の支援や協力が得られないから	23.8	22.9	27.4
女性の能力開発の機会が男性に比べ不十分だから	25.7	25.9	23.2
男性中心の組織運営だから	47.9	47.9	49.5
女性の能力に対する偏見があるから	25.8	25.8	28.3
女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ないから	39.3	41.4	43.5
企業経営者や団体・機関などのトップの意識が不十分だから	31.4	31.4	34.2
長時間労働を美德としている風習があり、女性が長時間働くのは難しいから	-	34.3	35.2
その他	1.4	1.7	3.0
わからない	6.0	7.4	5.2

## <性別及び性・年代別にみた結果>

性別にみると、「女性」は「男性」と比べて「家族、職場、地域において、性別役割分担や女性差別の意識があるから」と「家族の支援や協力が得られないから」、「女性の能力開発の機会が男性に比べ不十分だから」、「女性の能力に対する偏見があるから」の割合が高くなっている。

性・年代別にみると、「女性」の「30 歳代」と「60 歳代」では「男性中心の組織運営だから」、「60 歳以上」では「女性の能力開発の機会が男性に比べ不十分だから」の割合が高くなっている。

一方、「男性」の『60 歳以上』では「女性自身が、社会進出に対して積極性が不十分だから」の割合が高くなるなど女性自身の課題を指摘する項目が多くなっているほか、『70 歳以上』では「家族、職場、地域において、性別役割分担や女性差別の意識があるから」や「女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ないから」など、女性を後押しする社会的な環境づくりが不十分な内容を挙げた人も多くなっている。

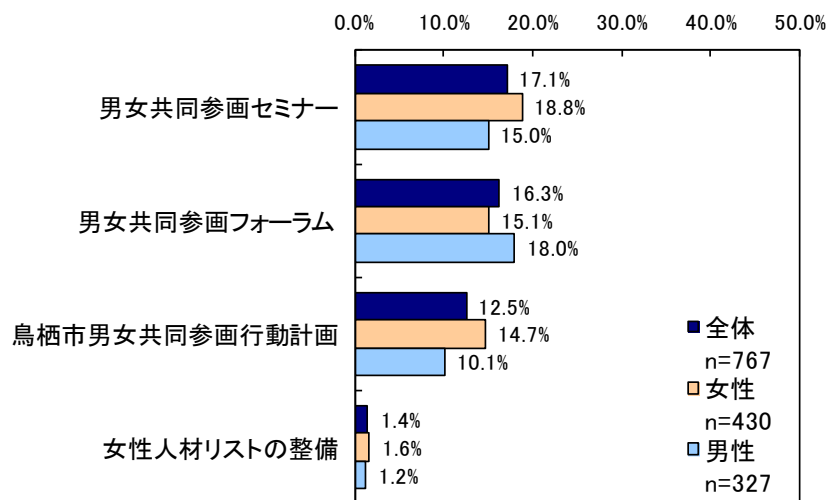
	合計	女性自身が、社会進出に対し	性別役割分担や女性差別の意識があるから	家族、職場、地域において、	家族の支援や協力が得られないから	女性の能力開発の機会が男性に比べて十分だから	男性中心の組織運営だから	女性の能力に対する偏見があるから	女性の参画を積極的に進めようとの意識している人が少ないから	企業の経営者や団体・機関などのトップの意識が十分だから	企業風習が難しいから	長時間労働を美德としている	その他	わからない										
<b>全体</b>	<b>767</b>	<b>252</b>	<b>349</b>	<b>210</b>	<b>178</b>	<b>380</b>	<b>217</b>	<b>334</b>	<b>262</b>	<b>270</b>	<b>23</b>	<b>40</b>	<b>32.9%</b>	<b>45.5%</b>	<b>27.4%</b>	<b>23.2%</b>	<b>49.5%</b>	<b>28.3%</b>	<b>43.5%</b>	<b>34.2%</b>	<b>35.2%</b>	<b>3.0%</b>	<b>5.2%</b>	
女性	小計	430	140	213	130	110	216	133	189	152	154	9	21	32.6%	49.5%	30.2%	25.6%	50.2%	30.9%	44.0%	35.3%	35.8%	2.1%	4.9%
	20歳代	41	10	26	8	5	22	15	15	13	15	2	0	24.4%	63.4%	19.5%	12.2%	53.7%	36.6%	36.6%	31.7%	36.6%	4.9%	0.0%
	30歳代	54	11	26	20	7	35	18	21	17	31	2	0	20.4%	48.1%	37.0%	13.0%	64.8%	33.3%	38.9%	31.5%	57.4%	3.7%	0.0%
	40歳代	55	20	32	18	14	29	14	26	21	21	1	1	36.4%	58.2%	32.7%	25.5%	52.7%	25.5%	47.3%	38.2%	38.2%	1.8%	1.8%
	50歳代	59	14	25	23	15	31	9	23	25	18	0	6	23.7%	42.4%	39.0%	25.4%	52.5%	15.3%	39.0%	42.4%	30.5%	0.0%	10.2%
	60歳代	79	25	48	20	24	45	30	40	36	27	2	2	31.6%	60.8%	25.3%	30.4%	57.0%	38.0%	50.6%	45.6%	34.2%	2.5%	2.5%
	70～74歳	63	20	24	18	17	29	19	31	20	17	0	5	31.7%	38.1%	28.6%	27.0%	46.0%	30.2%	49.2%	31.7%	27.0%	0.0%	7.9%
	75歳以上	79	40	32	23	28	25	28	33	20	25	2	7	50.6%	40.5%	29.1%	35.4%	31.6%	35.4%	41.8%	25.3%	31.6%	2.5%	8.9%
	小計	327	110	131	80	65	162	84	140	107	113	12	19	33.6%	40.1%	24.5%	19.9%	49.5%	25.7%	42.8%	32.7%	34.6%	3.7%	5.8%
	20歳代	37	10	10	6	6	18	7	10	12	6	1	6	27.0%	27.0%	16.2%	16.2%	48.6%	18.9%	27.0%	32.4%	16.2%	2.7%	16.2%
30歳代	39	11	15	10	8	21	13	12	14	19	6	1	28.2%	38.5%	25.6%	20.5%	53.8%	33.3%	30.8%	35.9%	48.7%	15.4%	2.6%	
40歳代	54	16	13	10	11	23	11	22	15	20	3	4	29.6%	24.1%	18.5%	20.4%	42.6%	20.4%	40.7%	27.8%	37.0%	5.6%	7.4%	
50歳代	48	14	19	8	8	29	15	22	11	15	0	3	29.2%	39.6%	16.7%	16.7%	60.4%	31.3%	45.8%	22.9%	31.3%	0.0%	6.3%	
60歳代	59	23	25	17	9	27	15	23	18	17	1	3	39.0%	42.4%	28.8%	15.3%	45.8%	25.4%	39.0%	30.5%	28.8%	1.7%	5.1%	
70～74歳	51	21	28	17	12	22	14	30	19	18	1	1	41.2%	54.9%	33.3%	23.5%	43.1%	27.5%	58.8%	37.3%	35.3%	2.0%	2.0%	
75歳以上	39	15	21	12	11	22	9	21	18	18	0	1	38.5%	53.8%	30.8%	28.2%	56.4%	23.1%	53.8%	46.2%	46.2%	0.0%	2.6%	

## 4 鳥栖市の男女共同参画施策の認知状況

問 23 あなたは、鳥栖市が取り組んでいる男女共同参画に関する施策をご存じですか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

### <全体の結果>

鳥栖市が取り組んでいる男女共同参画に関する施策の認知状況をみると、最も割合が高い「男女共同参画セミナー」でも 17.1%となっており、認知状況は低くなっている。以下、回答割合の高い方から、「男女共同参画フォーラム」(16.3%)、「鳥栖市男女共同参画行動計画」(12.5%)、「女性人材リストの整備」(1.4%)の順となっている。



### <前回との比較>

平成 23 年調査と比較して 5 ポイント以上の増減した項目は皆無となっている。

	平成23年 n=787 %	平成28年 n=706 %	令和3年 n=767 %
鳥栖市男女共同参画行動計画	17.4	12.0	16.3
男女共同参画フォーラム	17.9	17.1	17.1
男女共同参画セミナー	13.1	13.6	12.5
女性人材リストの整備	1.5	2.0	1.4

## <性別及び性・年代別にみた結果>

性別による大きな差は認められない。

性・年代別にみても大きな差は認められないが、「鳥栖市男女共同参画行動計画」は「女性」の「40歳代」と『70歳代以上』、「男性」の「60歳代」と「75歳以上」の割合がやや高くなっている。他の施策も『70歳代以上』を中心に認知度がやや高くなっている。

	合計	計 画 鳥 栖 市 男 女 共 同 参 画 行 動	男 女 共 同 参 画 フ ォ ー ラ ム	男 女 共 同 参 画 セ ミ ナ ー	女 性 人 材 リ ス ト の 整 備
<b>全体</b>	<b>767</b>	<b>125</b>	<b>131</b>	<b>96</b>	<b>11</b>
		<b>16.3%</b>	<b>17.1%</b>	<b>12.5%</b>	<b>1.4%</b>
<b>女性</b>	<b>430</b>	<b>65</b>	<b>81</b>	<b>63</b>	<b>7</b>
小計		15.1%	18.8%	14.7%	1.6%
20歳代	41	1	3	1	0
		2.4%	7.3%	2.4%	0.0%
30歳代	54	7	7	4	2
		13.0%	13.0%	7.4%	3.7%
40歳代	55	13	9	9	0
		23.6%	16.4%	16.4%	0.0%
50歳代	59	5	13	9	1
		8.5%	22.0%	15.3%	1.7%
60歳代	79	9	17	11	2
		11.4%	21.5%	13.9%	2.5%
70～74歳	63	14	15	15	0
		22.2%	23.8%	23.8%	0.0%
75歳以上	79	16	17	14	2
		20.3%	21.5%	17.7%	2.5%
<b>男性</b>	<b>327</b>	<b>59</b>	<b>49</b>	<b>33</b>	<b>4</b>
小計		18.0%	15.0%	10.1%	1.2%
20歳代	37	4	2	3	1
		10.8%	5.4%	8.1%	2.7%
30歳代	39	2	3	1	1
		5.1%	7.7%	2.6%	2.6%
40歳代	54	5	7	3	0
		9.3%	13.0%	5.6%	0.0%
50歳代	48	9	5	1	0
		18.8%	10.4%	2.1%	0.0%
60歳代	59	18	12	9	0
		30.5%	20.3%	15.3%	0.0%
70～74歳	51	10	11	4	1
		19.6%	21.6%	7.8%	2.0%
75歳以上	39	11	9	12	1
		28.2%	23.1%	30.8%	2.6%



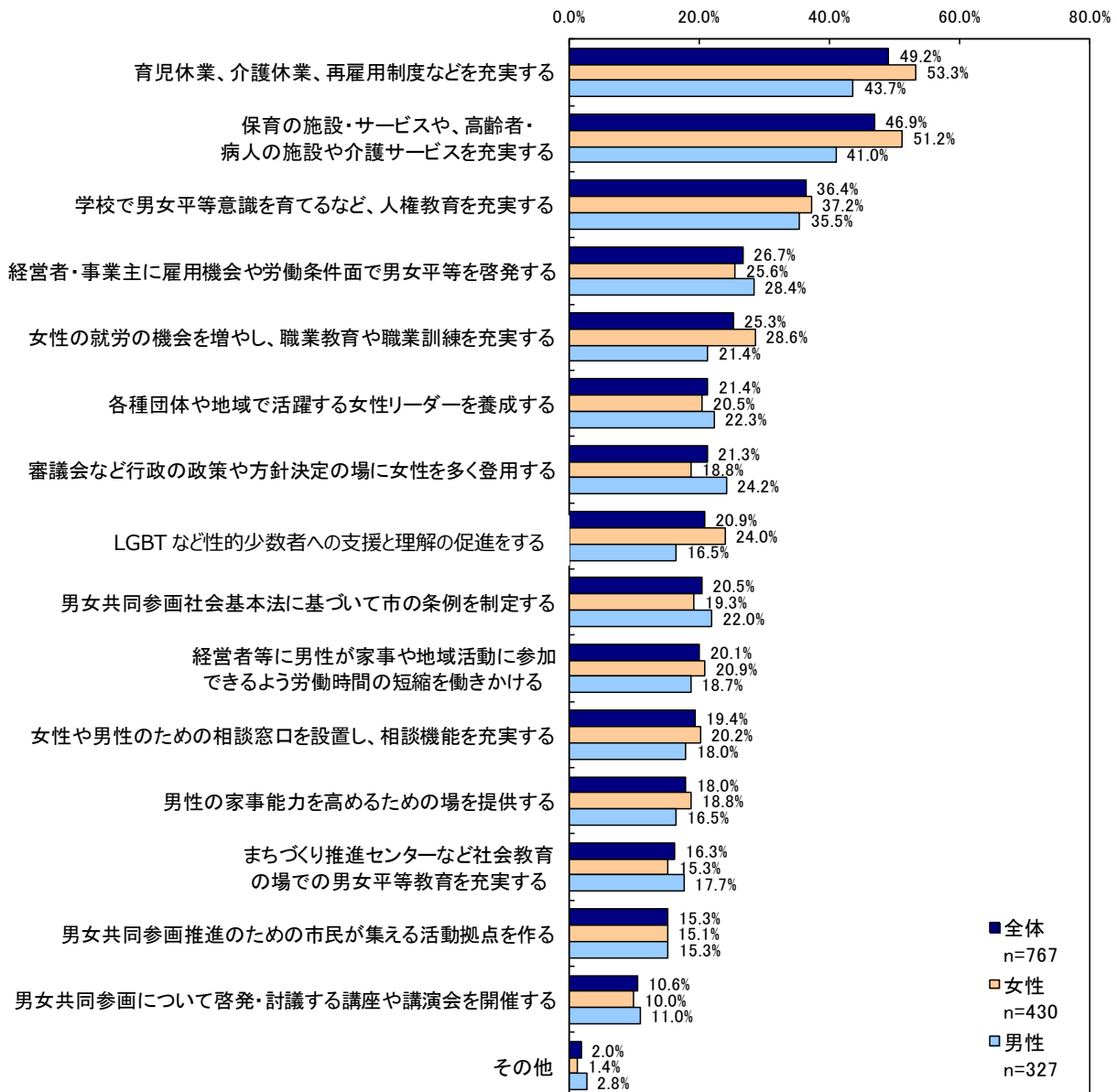
## 5 男女共同参画社会づくりを進めるために市で力を入れるべきこと

問 24 あなたは、男女共同参画社会づくりを進めるために、鳥栖市は今後何に力を入れるべきだと思いますか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

### <全体の結果>

男女共同参画社会づくりを進めるために、鳥栖市は今後何に力を入れるべきだと思うかについては、「育児休業、介護休業、再雇用制度などを充実する」の49.2%が最も多く、これに「保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設や介護サービスを充実する」の46.9%が続いている。以下、回答割合の高い方から、「学校で男女平等意識を育てるなど、人権教育を充実する」(36.4%)、「経営者・事業主に雇用機会や労働条件面で男女平等を啓発する」(26.7%)の順となっている。

福祉サービスの充実や休業及び再雇用制度及び女性の就労機会の充実、学校での人権教育の充実など、日常生活面での女性に対する支援や子どものころからの人権教育を求める項目の割合が高くなっている。



## <前回との比較>

平成28年調査と比較して5ポイント以上増加した項目は「育児休業、介護休業、再雇用制度などを充実する」（令和3年49.2%、5.9ポイント増）、「経営者・事業主に雇用機会や労働条件面で男女平等を啓発する」（令和3年26.7%、5.2ポイント増）となっている。同じく5ポイント以上減少した項目は、「男女共同参画について啓発・討議する講座や講演会を開催する」（令和3年10.6%、6.8ポイント減）となっている。

今後力を入れるべき取組み

	平成23年 n=787 %	平成28年 n=706 %	令和3年 n=767 %
男女共同参画社会基本法に基づいて市の条例を制定する	16.8	17.3	<b>20.5</b>
男女共同参画推進のための市民が集える活動拠点を作る	16.9	19.4	<b>15.3</b>
審議会など行政の政策や方針決定の場に女性を多く登用する	18.6	18.6	<b>21.3</b>
学校で男女平等意識を育てるなど、人権教育を充実する	30.0	32.7	<b>36.4</b>
まちづくり推進センターなど社会教育の場での男女平等教育を充実する	10.2	17.3	<b>16.3</b>
各種団体や地域で活躍する女性リーダーを養成する	15.4	21.0	<b>21.4</b>
女性や男性のための相談窓口を設置し、相談機能を充実する	17.2	15.9	<b>19.4</b>
男性の家事能力を高めるための場を提供する	17.9	16.1	<b>18.0</b>
育児休業、介護休業、再雇用制度などを充実する	48.9	43.3	<b>49.2</b>
保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設や介護サービスを充実する	47.0	44.8	<b>46.9</b>
経営者・事業主に雇用機会や労働条件面で男女平等を啓発する	21.2	21.5	<b>26.7</b>
経営者等に男性が家事や地域活動に参加できるよう労働時間の短縮を働きかける	18.3	20.8	<b>20.1</b>
女性の就労の機会を増やし、職業教育や職業訓練を充実する	28.7	27.6	<b>25.3</b>
男女共同参画について啓発・討議する講座や講演会を開催する	14.2	17.4	<b>10.6</b>
LGBTなど性的少数者への支援と理解の促進をする	—	—	<b>20.9</b>
その他	2.3	2.3	<b>2.0</b>
特になし	7.2	7.2	<b>7.0</b>

※平成28年調査と23年調査の選択肢の違いは、以下のとおり。

- ・28年「まちづくり推進センターなど社会教育の場での男女平等教育を充実する」⇒23年「公民館など社会教育の場での男女平等教育を充実する」
- ・28年「各種団体や地域で活躍する女性リーダーを養成する」⇒23年「女性団体活動の女性や女性リーダーを養成する」
- ・28年「男女共同参画について啓発・討議する講座や講演会を開催する」⇒23年「各種講座・講演会を開催し、社会活動の情報を提供する」

## <性別及び性・年代別にみた結果>

性別にみると、「女性」は「男性」と比べて「育児休業、介護休業、再雇用制度などを充実する」、「保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設や介護サービスを充実する」、「女性の就労機会を増やし、職業教育や職業訓練を充実する」、「LGBT など性的少数者への支援と理解の促進をする」の割合が高くなっている。一方、「男性」は「女性」と比べて「審議会など行政の政策や方針決定の場に女性を多く登用する」の割合が高くなっている。

性・年代別にみると、「女性」の『20～40 歳代』で全体平均よりも 5 ポイント以上高くなっているのは、「男性の家事能力を高めるための場を提供する」、「育児休業、介護休業、再雇用制度などを充実する」、「保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設や介護サービスを充実する」、「LGBT など性的少数者への支援と理解の促進をする」となっている。同じく『60～74 歳』で全体平均よりも 5 ポイント程度以上高くなっているのは「男女共同参画推進のための市民が集える活動拠点を作る」、「学校で男女平等意識を育てるなど、人権教育を充実する」など、生涯学習や教育・啓発に関わる項目の割合が比較的高くなっている。「男性」の『60～74 歳』でも「まちづくり推進センターなど社会教育の場での男女平等教育を充実する」の割合が 20%台の割合で他の年代よりも高くなっている

	合計	男女共同参画社会基本法に基づいて市の条例を制定する	男女共同参画推進のための市民が集える活動拠点を作る	審議会など行政の政策や方針決定の場に女性を多く登用する	学校で男女平等意識を育てるなど、人権教育を充実する	まちづくり推進センターなど社会教育の場での男女平等教育を充実する	各種団体や地域で活躍する女性リーダーを養成する	女性や男性のための相談窓口を設置し、相談機能を充実する	男性の家事能力を高めるための場を提供する	育児休業、介護休業、再雇用制度などを充実する	保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設や介護サービスを充実する	経営者・事業主に雇用機会や労働条件面で男女平等を啓発する	経営者等に男性が家事や地域の活動に参加できるような労働時間の短縮を働きかける	女性の就業の機会を増やし、職業教育や職業訓練を充実する	男女共同参画について啓発・討議する講座や講演会を開催する	LGBTなど性的少数者への支援と理解の促進をする	その他	特になし
<b>全体</b>	<b>767</b>	<b>157</b>	<b>117</b>	<b>163</b>	<b>279</b>	<b>125</b>	<b>164</b>	<b>149</b>	<b>138</b>	<b>377</b>	<b>360</b>	<b>205</b>	<b>154</b>	<b>194</b>	<b>81</b>	<b>160</b>	<b>15</b>	<b>54</b>
		<b>20.5%</b>	<b>15.3%</b>	<b>21.3%</b>	<b>36.4%</b>	<b>16.3%</b>	<b>21.4%</b>	<b>19.4%</b>	<b>18.0%</b>	<b>49.2%</b>	<b>46.9%</b>	<b>26.7%</b>	<b>20.1%</b>	<b>25.3%</b>	<b>10.6%</b>	<b>20.9%</b>	<b>2.0%</b>	<b>7.0%</b>
<b>女性</b>	<b>430</b>	<b>83</b>	<b>65</b>	<b>81</b>	<b>160</b>	<b>66</b>	<b>88</b>	<b>87</b>	<b>81</b>	<b>229</b>	<b>220</b>	<b>110</b>	<b>90</b>	<b>123</b>	<b>43</b>	<b>103</b>	<b>6</b>	<b>23</b>
		<b>19.3%</b>	<b>15.1%</b>	<b>18.8%</b>	<b>37.2%</b>	<b>15.3%</b>	<b>20.5%</b>	<b>20.2%</b>	<b>18.8%</b>	<b>53.3%</b>	<b>51.2%</b>	<b>25.6%</b>	<b>20.9%</b>	<b>28.6%</b>	<b>10.0%</b>	<b>24.0%</b>	<b>1.4%</b>	<b>5.3%</b>
20歳代	41	7	1	9	15	5	15	9	10	31	23	12	14	12	1	15	0	1
		17.1%	2.4%	22.0%	36.6%	12.2%	36.6%	22.0%	24.4%	75.6%	56.1%	29.3%	34.1%	29.3%	2.4%	36.6%	0.0%	2.4%
30歳代	54	10	3	10	20	5	11	14	15	32	30	16	22	23	3	23	2	2
		18.5%	5.6%	18.5%	37.0%	9.3%	20.4%	25.9%	27.8%	59.3%	55.6%	29.6%	40.7%	42.6%	5.6%	42.6%	3.7%	3.7%
40歳代	55	7	3	11	14	6	9	12	15	33	31	17	10	15	2	16	1	3
		12.7%	5.5%	20.0%	25.5%	10.9%	16.4%	21.8%	27.3%	60.0%	56.4%	30.9%	18.2%	27.3%	3.6%	29.1%	1.8%	5.5%
50歳代	59	10	7	8	18	5	12	11	11	26	28	10	10	20	4	12	1	4
		16.9%	11.9%	13.6%	30.5%	8.5%	20.3%	18.6%	18.6%	44.1%	47.5%	16.9%	16.9%	33.9%	6.8%	20.3%	1.7%	6.8%
60歳代	79	15	16	18	37	11	11	14	13	44	43	23	16	27	12	16	1	2
		19.0%	20.3%	22.8%	46.8%	13.9%	13.9%	17.7%	16.5%	55.7%	54.4%	29.1%	20.3%	34.2%	15.2%	20.3%	1.3%	2.5%
70～74歳	63	16	15	12	26	15	11	11	6	34	29	16	5	13	11	11	1	2
		25.4%	23.8%	19.0%	41.3%	23.8%	17.5%	17.5%	9.5%	54.0%	46.0%	25.4%	7.9%	20.6%	17.5%	17.5%	1.6%	3.2%
75歳以上	79	18	20	13	30	19	19	16	11	29	36	16	13	13	10	10	0	9
		22.8%	25.3%	16.5%	38.0%	24.1%	24.1%	20.3%	13.9%	36.7%	45.6%	20.3%	16.5%	16.5%	12.7%	12.7%	0.0%	11.4%
<b>男性</b>	<b>327</b>	<b>72</b>	<b>50</b>	<b>79</b>	<b>116</b>	<b>58</b>	<b>73</b>	<b>59</b>	<b>54</b>	<b>143</b>	<b>134</b>	<b>93</b>	<b>61</b>	<b>70</b>	<b>36</b>	<b>54</b>	<b>9</b>	<b>30</b>
		<b>22.0%</b>	<b>15.3%</b>	<b>24.2%</b>	<b>35.5%</b>	<b>17.7%</b>	<b>22.3%</b>	<b>18.0%</b>	<b>16.5%</b>	<b>43.7%</b>	<b>41.0%</b>	<b>28.4%</b>	<b>18.7%</b>	<b>21.4%</b>	<b>11.0%</b>	<b>16.5%</b>	<b>2.8%</b>	<b>9.2%</b>
20歳代	37	11	5	3	15	5	6	8	11	18	12	10	9	7	6	13	3	4
		29.7%	13.5%	8.1%	40.5%	13.5%	16.2%	21.6%	29.7%	48.6%	32.4%	27.0%	24.3%	18.9%	16.2%	35.1%	8.1%	10.8%
30歳代	39	8	2	12	11	6	9	7	8	19	14	12	12	6	1	8	3	3
		20.5%	5.1%	30.8%	28.2%	15.4%	23.1%	17.9%	20.5%	48.7%	35.9%	30.8%	30.8%	15.4%	2.6%	20.5%	7.7%	7.7%
40歳代	54	7	6	13	23	7	8	9	9	22	16	13	10	12	3	11	0	6
		13.0%	11.1%	24.1%	42.6%	13.0%	14.8%	16.7%	16.7%	40.7%	29.6%	24.1%	18.5%	22.2%	5.6%	20.4%	0.0%	11.1%
50歳代	48	10	5	10	8	7	11	8	5	17	24	8	6	11	2	7	2	7
		20.8%	10.4%	20.8%	16.7%	14.6%	22.9%	16.7%	10.4%	35.4%	50.0%	16.7%	12.5%	22.9%	4.2%	14.6%	4.2%	14.6%
60歳代	59	9	12	14	23	15	15	15	8	26	27	20	10	12	7	6	0	4
		15.3%	20.3%	23.7%	39.0%	25.4%	25.4%	25.4%	13.6%	44.1%	45.8%	33.9%	16.9%	20.3%	11.9%	10.2%	0.0%	6.8%
70～74歳	51	16	9	14	19	15	11	6	7	22	26	14	10	9	10	4	0	5
		31.4%	17.6%	27.5%	37.3%	29.4%	21.6%	11.8%	13.7%	43.1%	51.0%	27.5%	19.6%	17.6%	19.6%	7.8%	0.0%	9.8%
75歳以上	39	11	11	13	17	3	13	6	6	19	15	16	4	13	7	5	1	1
		28.2%	28.2%	33.3%	43.6%	7.7%	33.3%	15.4%	15.4%	48.7%	38.5%	41.0%	10.3%	33.3%	17.9%	12.8%	2.6%	2.6%